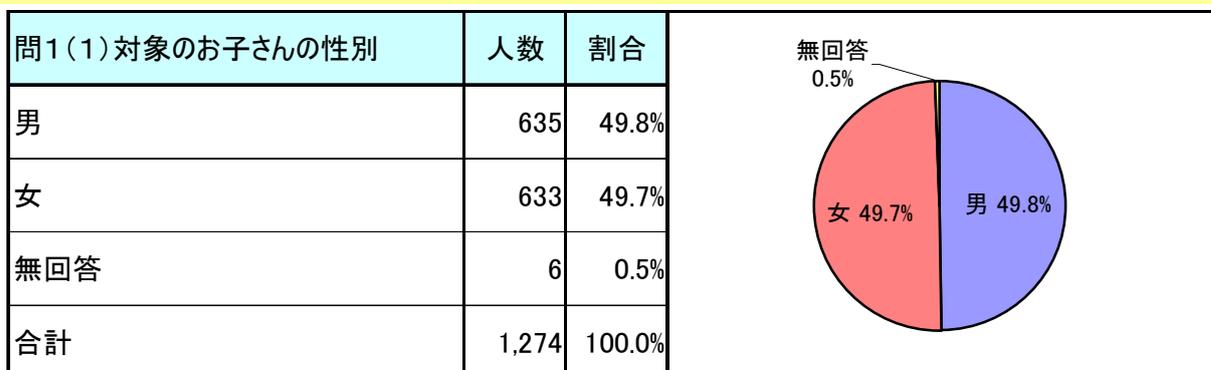


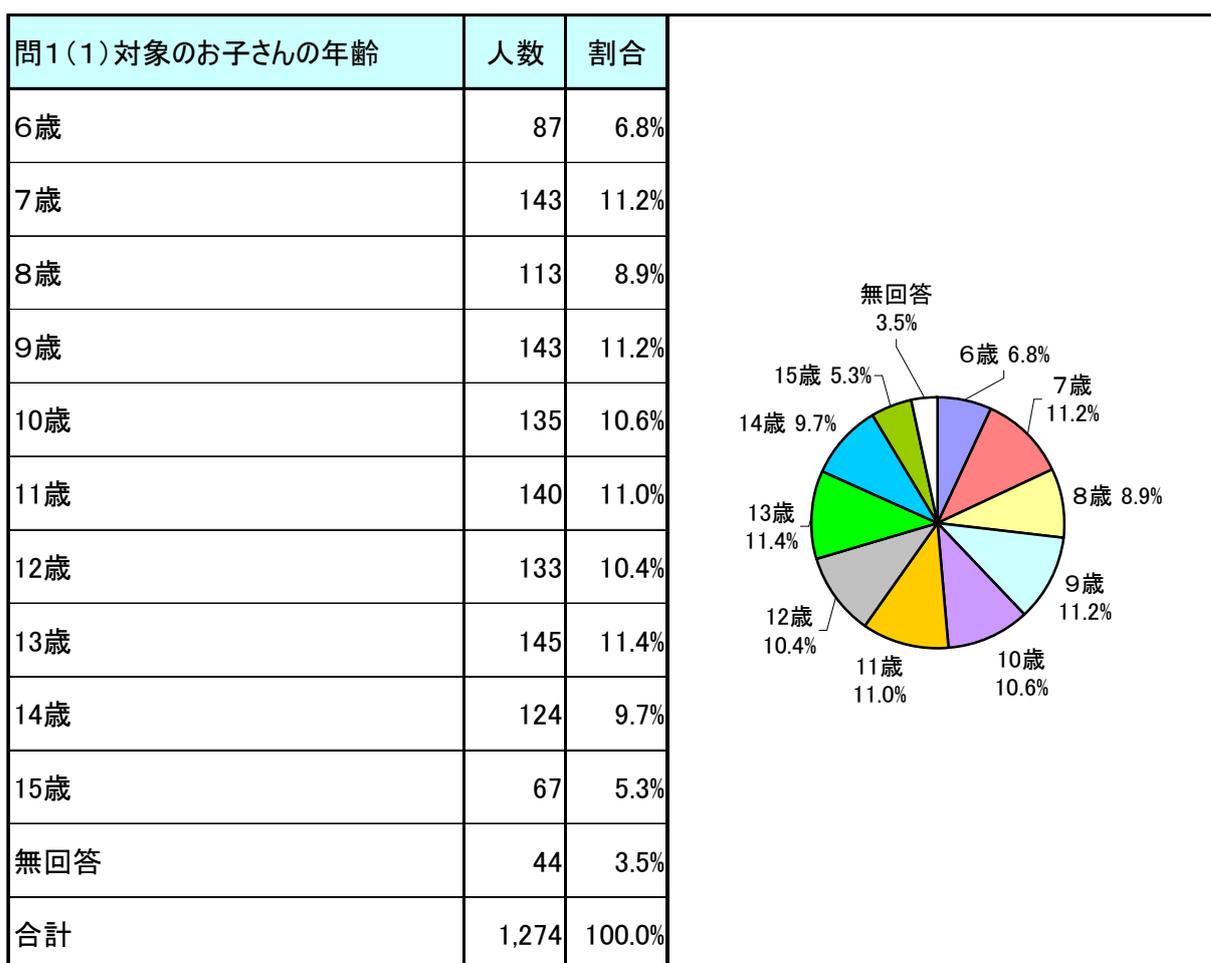
第3章 小中学生

1 ご家族やお住まいのことについて

問1 あなた（保護者）のご家族についてお聞きします。

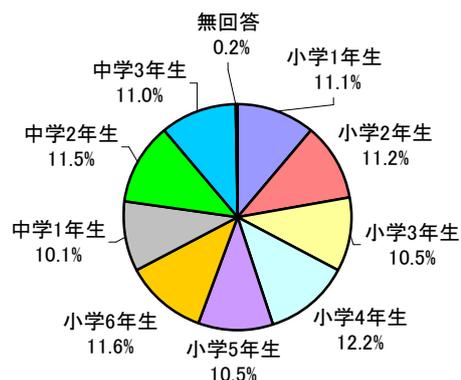


性別については、「男」が49.8%、「女」が49.7%となっている。



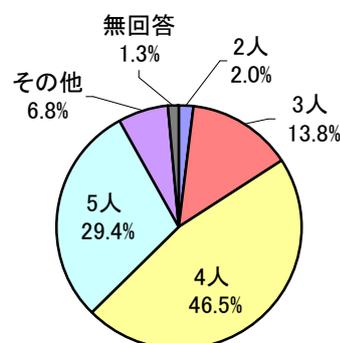
年齢については、「13歳」が11.4%と最も多く、次いで「7歳」と「9歳」が11.2%となっている。

問1(1)対象のお子さんの学年	人数	割合
小学1年生	141	11.1%
小学2年生	143	11.2%
小学3年生	134	10.5%
小学4年生	156	12.2%
小学5年生	134	10.5%
小学6年生	148	11.6%
中学1年生	129	10.1%
中学2年生	146	11.5%
中学3年生	140	11.0%
無回答	3	0.2%
合計	1,274	100.0%

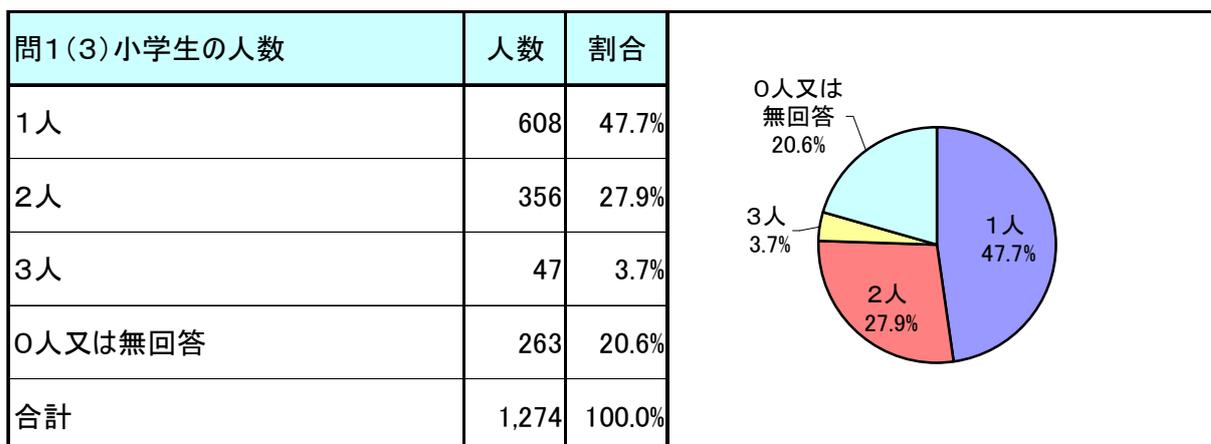


学年については、「小学4年生」が12.2%と最も多く、次いで「小学6年生」が11.6%、「中学2年生」が11.5%となっている。

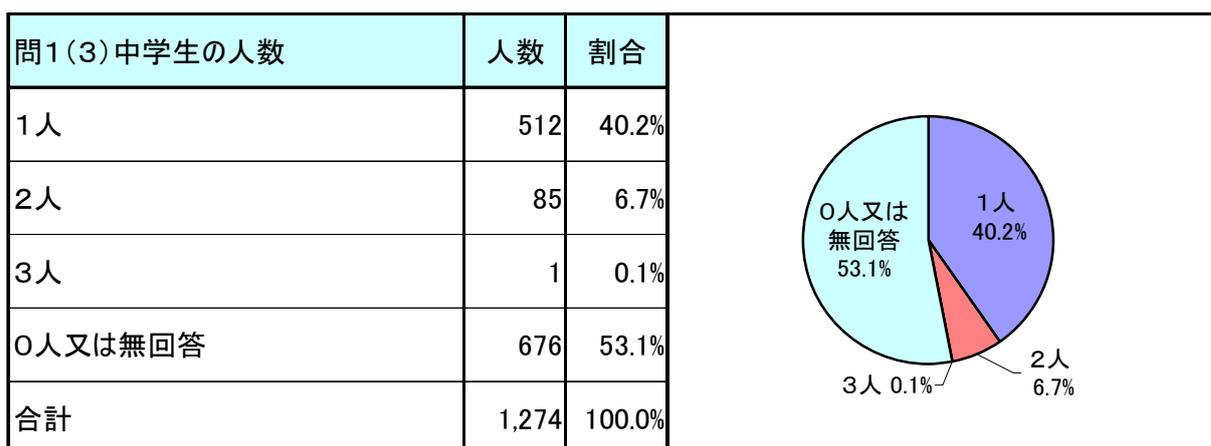
問1(2)家族の人数	人数	割合
2人	26	2.0%
3人	176	13.8%
4人	593	46.5%
5人	375	29.4%
その他	87	6.8%
無回答	17	1.3%
合計	1,274	100.0%



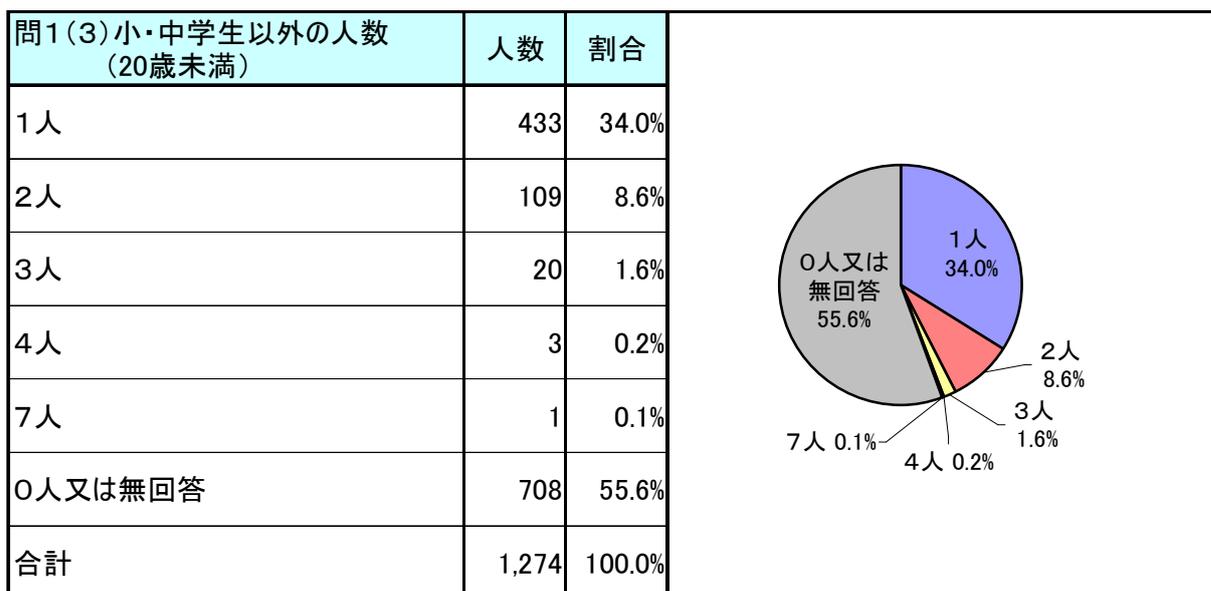
家族の人数については、「4人」が46.5%と最も多く、次いで「5人」が29.4%、「3人」13.8%となっている。



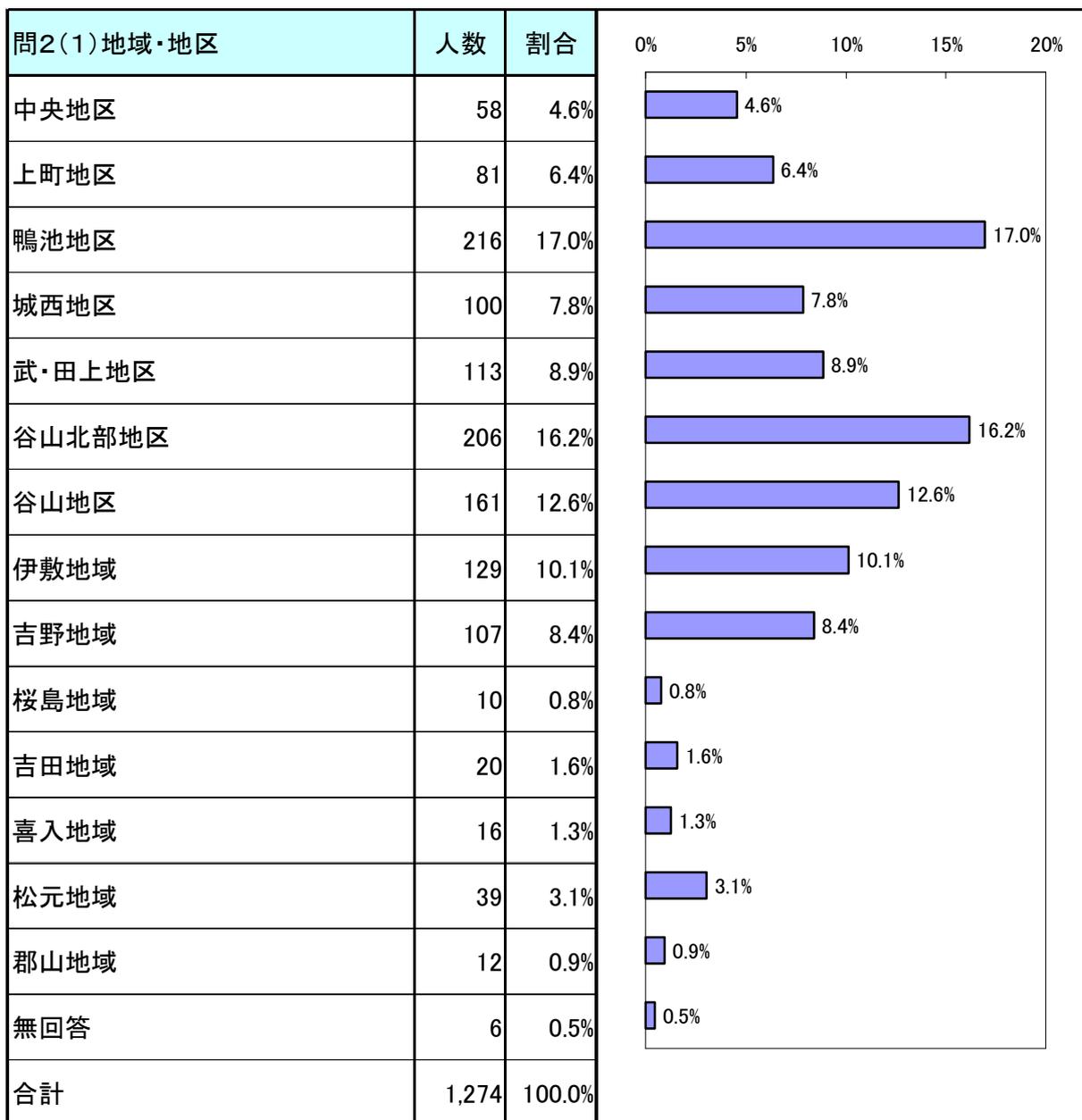
子どもの人数（小学生）については、「1人」が47.7%と最も多く、次いで「2人」が27.9%、「3人」が3.7%となっている。



子どもの人数（中学生）については、「1人」が40.2%、「2人」が6.7%となっている。



子どもの人数（小・中学生以外の20歳未満）については、「1人」が34.0%、「2人」が8.6%となっている。

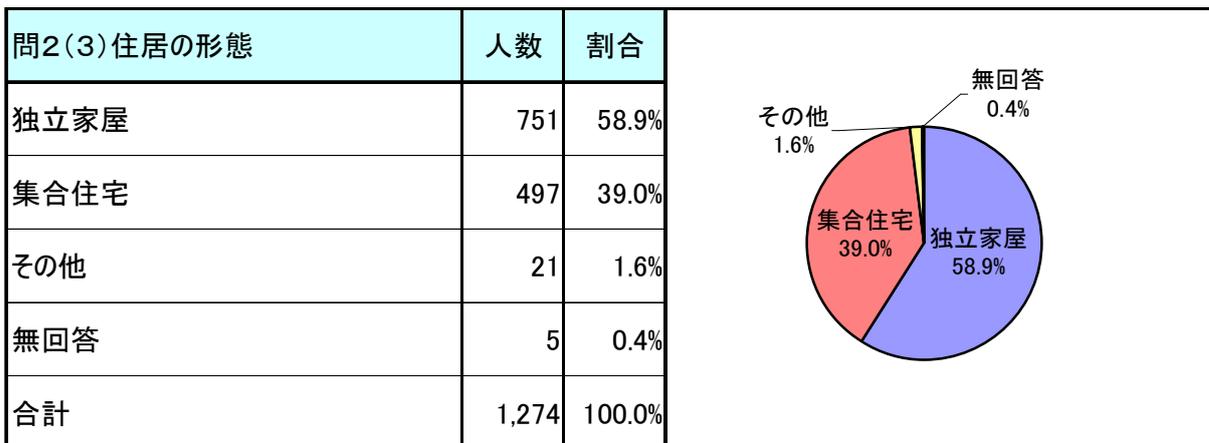


(注) 第五次総合計画に基づく地域・地区

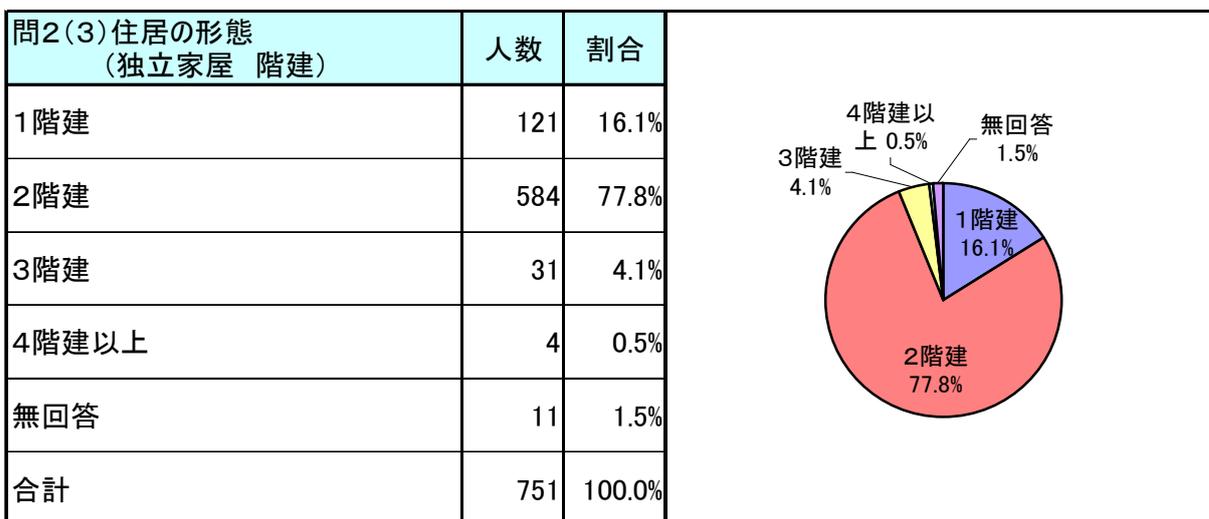
現住所地については、「鴨池地区」が 17.0%と最も多く、次いで「谷山北部地区」が 16.2%、「谷山地区」が 12.6%となっている。

問2 (2) 小学校区

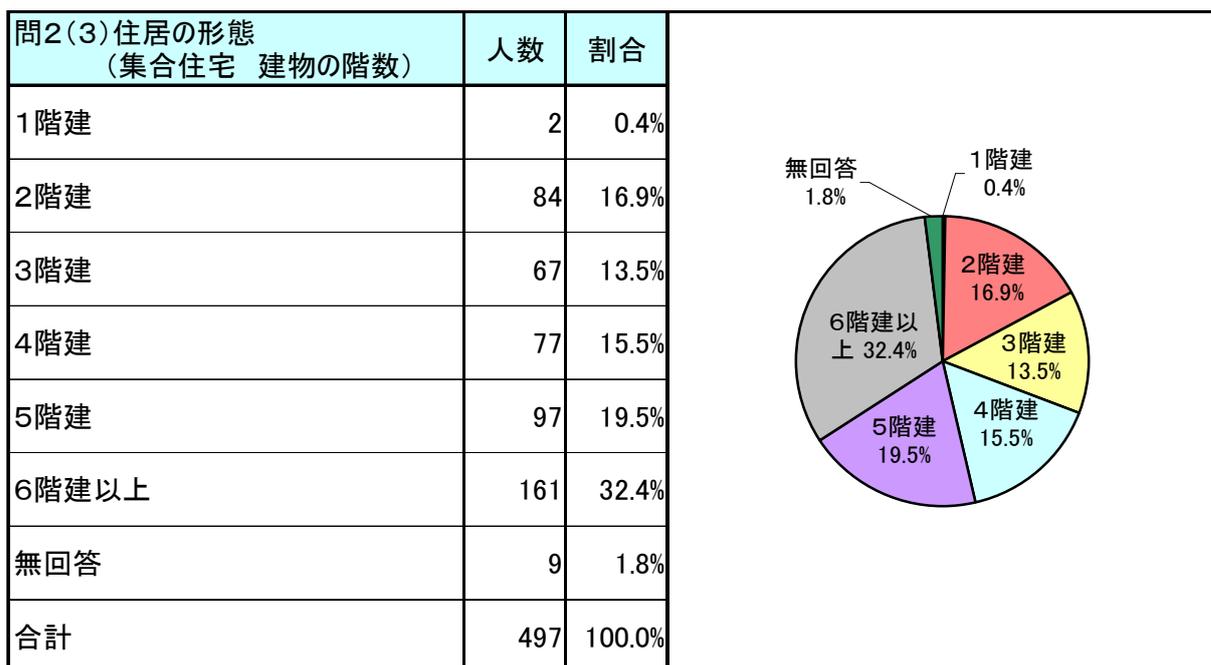
区 分	人数	割合	区 分	人数	割合
吉田小学校	4	0.3%	花野小学校	16	1.3%
本名小学校	9	0.7%	西伊敷小学校	23	1.8%
宮小学校	1	0.1%	伊敷台小学校	30	2.4%
本城小学校	0	0.0%	玉江小学校	34	2.7%
牟礼岡小学校	4	0.3%	小山田小学校	3	0.2%
南方小学校	3	0.2%	犬迫小学校	1	0.1%
花尾小学校	1	0.1%	皆与志小学校	3	0.2%
郡山小学校	8	0.6%	東桜島小学校	2	0.2%
川上小学校	19	1.5%	改新小学校	0	0.0%
吉野小学校	43	3.4%	高免小学校	0	0.0%
吉野東小学校	30	2.4%	黒神小学校	0	0.0%
大明丘小学校	17	1.3%	桜洲小学校	6	0.5%
坂元小学校	16	1.3%	桜峰小学校	1	0.1%
坂元台小学校	11	0.9%	松元小学校	20	1.6%
清水小学校	20	1.6%	東昌小学校	0	0.0%
大龍小学校	18	1.4%	春山小学校	11	0.9%
名山小学校	14	1.1%	石谷小学校	7	0.5%
山下小学校	16	1.3%	谷山小学校	55	4.3%
松原小学校	5	0.4%	西谷山小学校	23	1.8%
城南小学校	10	0.8%	東谷山小学校	42	3.3%
草牟田小学校	17	1.3%	清和小学校	34	2.7%
原良小学校	24	1.9%	和田小学校	35	2.7%
明和小学校	29	2.3%	錦江台小学校	17	1.3%
武岡小学校	11	0.9%	福平小学校	15	1.2%
武岡台小学校	16	1.3%	平川小学校	1	0.1%
西田小学校	25	2.0%	錫山小学校	3	0.2%
武小学校	31	2.4%	中山小学校	39	3.1%
田上小学校	21	1.6%	桜丘西小学校	16	1.3%
西陵小学校	22	1.7%	桜丘東小学校	15	1.2%
広木小学校	13	1.0%	星峯西小学校	20	1.6%
中洲小学校	16	1.3%	星峯東小学校	12	0.9%
荒田小学校	13	1.0%	宮川小学校	20	1.6%
八幡小学校	26	2.0%	皇徳寺小学校	19	1.5%
中郡小学校	13	1.0%	瀬々串小学校	3	0.2%
紫原小学校	43	3.4%	中名小学校	5	0.4%
西紫原小学校	42	3.3%	喜入小学校	6	0.5%
鴨池小学校	25	2.0%	前之浜小学校	0	0.0%
南小学校	15	1.2%	生見小学校	2	0.2%
宇宿小学校	17	1.3%	一倉小学校	0	0.0%
向陽小学校	17	1.3%	無回答	37	2.9%
伊敷小学校	13	1.0%	合 計	1,274	100.0%



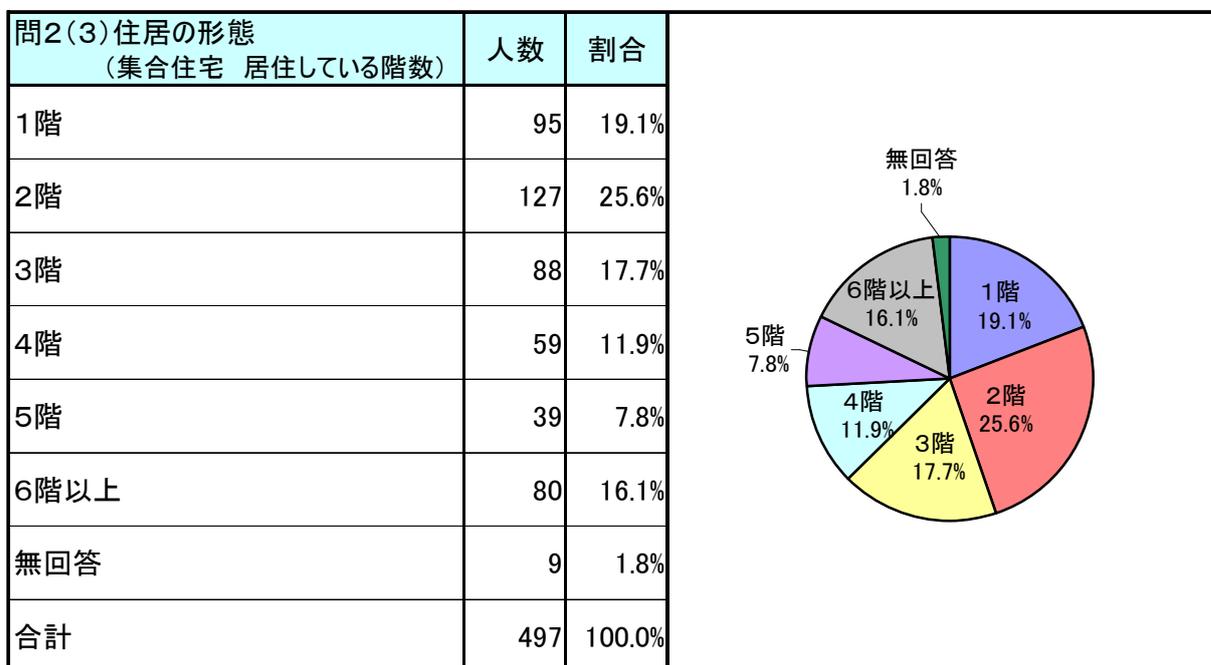
住居の形態については、「独立家屋」が58.9%、「集合住宅」が39.0%となっている。



独立家屋の住居の形態については、「2階建」が77.8%と最も多く、次いで「1階建」が16.1%、「3階建」が4.1%となっている。



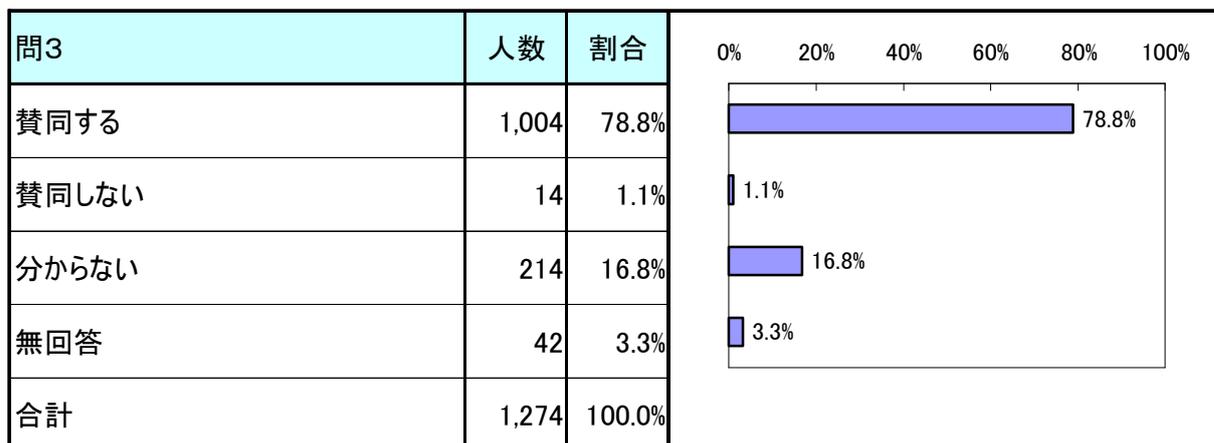
集合住宅の建物の階数については、「6階建以上」が32.4%と最も多く、次いで「5階建」が19.5%、「2階建」が16.9%となっている。



集合住宅の居住している階数については、「2階」が25.6%と最も多く、次いで「1階」が19.1%、「3階」が17.7%となっている。

2 セーフコミュニティについて

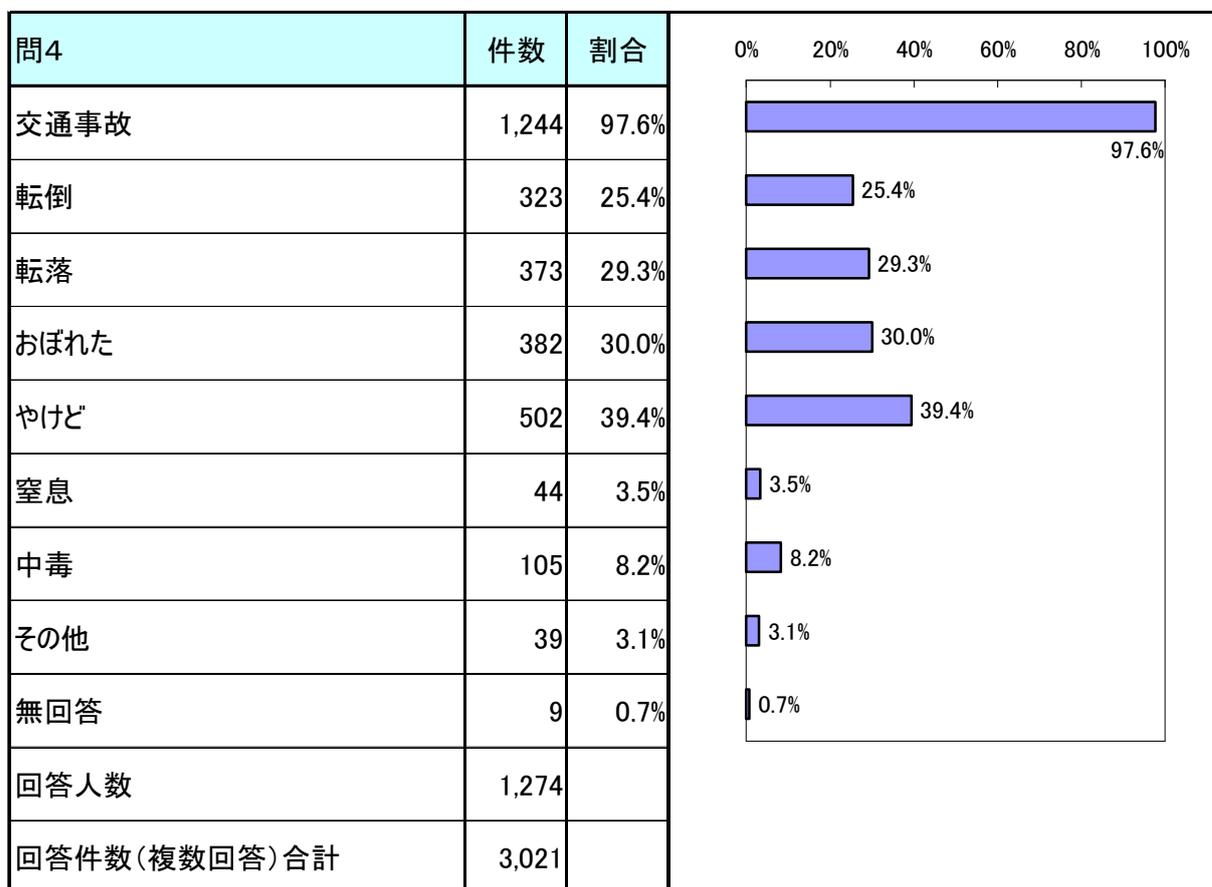
問3 セーフコミュニティは、「事故やけがなどは偶然の結果ではなく、未然に防ぐことができる」という理念に基づいた安全向上の取組です。あなた（保護者）は、この考えについてどう思いますか。（ひとつに○）



セーフコミュニティの考えについては、「賛同する」が78.8%となっている。

3 不慮の事故について

問4 不慮の事故とは、交通事故、転倒、転落、おぼれた、やけど、窒息、中毒などをいいますが、対象(封筒の宛名)のお子さん対し、特に注意している不慮の事故は何ですか。(3つまで○)

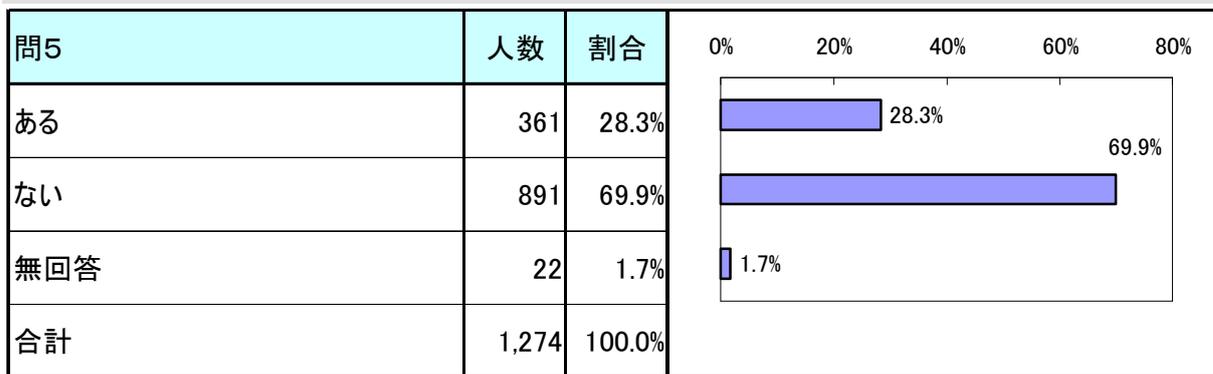


特に注意している不慮の事故については、「交通事故」が97.6%と最も多く、次いで「やけど」が39.4%、「おぼれた」が30.0%となっている。

「その他」の具体的な内容としては、「災害」、「事件」等が挙げられた。

問5 対象のお子さんが、この1年間（平成23年8月～平成24年7月）にもう少しで「事故やけが」に遭いそうになりヒヤリとしたことはありますか。（ひとつに○）

問5 対象のお子さんが、この1年間にもう少しで「事故やけが」に遭いそうになりヒヤリとしたことはありますか。（ひとつに○） **【交通事故】**



交通事故に遭いそうになりヒヤリとしたことについては、「ある」が28.3%、「ない」が69.9%となっている。

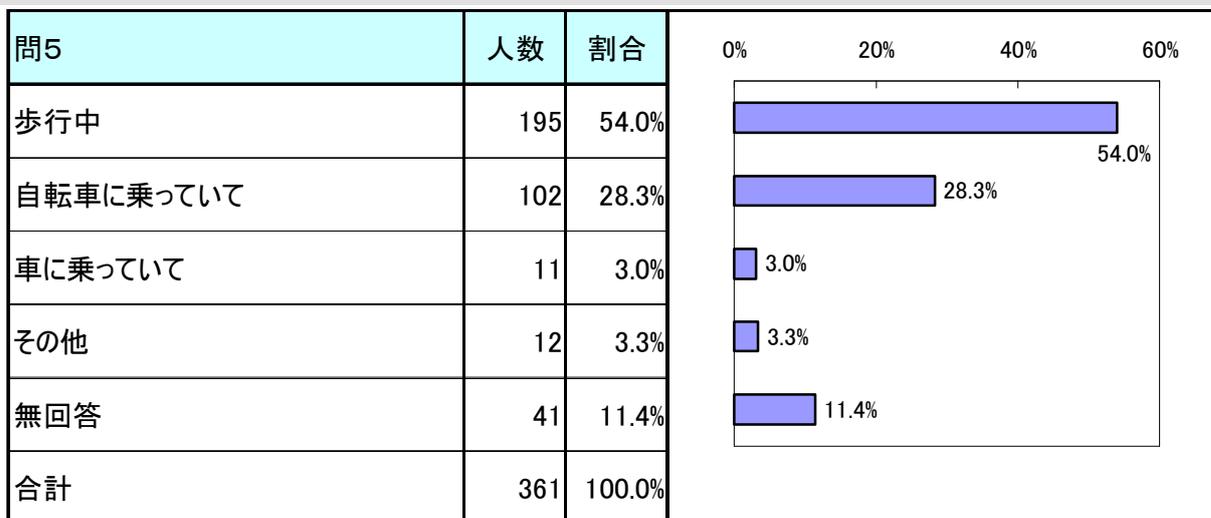
【属性別特徴】

性別では、男の「ある」が30.9%で、女の25.9%に比べてやや高くなっている。

学年別では、小学校低学年の「ある」が33.3%で、小学校高学年の25.8%、中学生の26.0%に比べてやや高くなっている。

問5	全体		お子さんの性別				学年					
			男		女		小学校低学年		小学校高学年		中学生	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
ある	361	28.3%	196	30.9%	164	25.9%	139	33.3%	113	25.8%	108	26.0%
ない	891	69.9%	431	67.9%	455	71.9%	271	64.8%	316	72.1%	302	72.8%
無回答	22	1.7%	8	1.3%	14	2.2%	8	1.9%	9	2.1%	5	1.2%
合計	1,274	100.0%	635	100.0%	633	100.0%	418	100.0%	438	100.0%	415	100.0%

問5 何をしているときですか。(ひとつに○) 【交通事故】



何をしているときに交通事故に遭いそうになったかについては、「歩行中」が54.0%と最も多く、次いで「自転車に乗っていて」が28.3%、「車に乗っていて」が3.0%となっている。

「その他」の具体的な内容としては、「ボール遊びをされていて」等が挙げられた。

【属性別特徴】

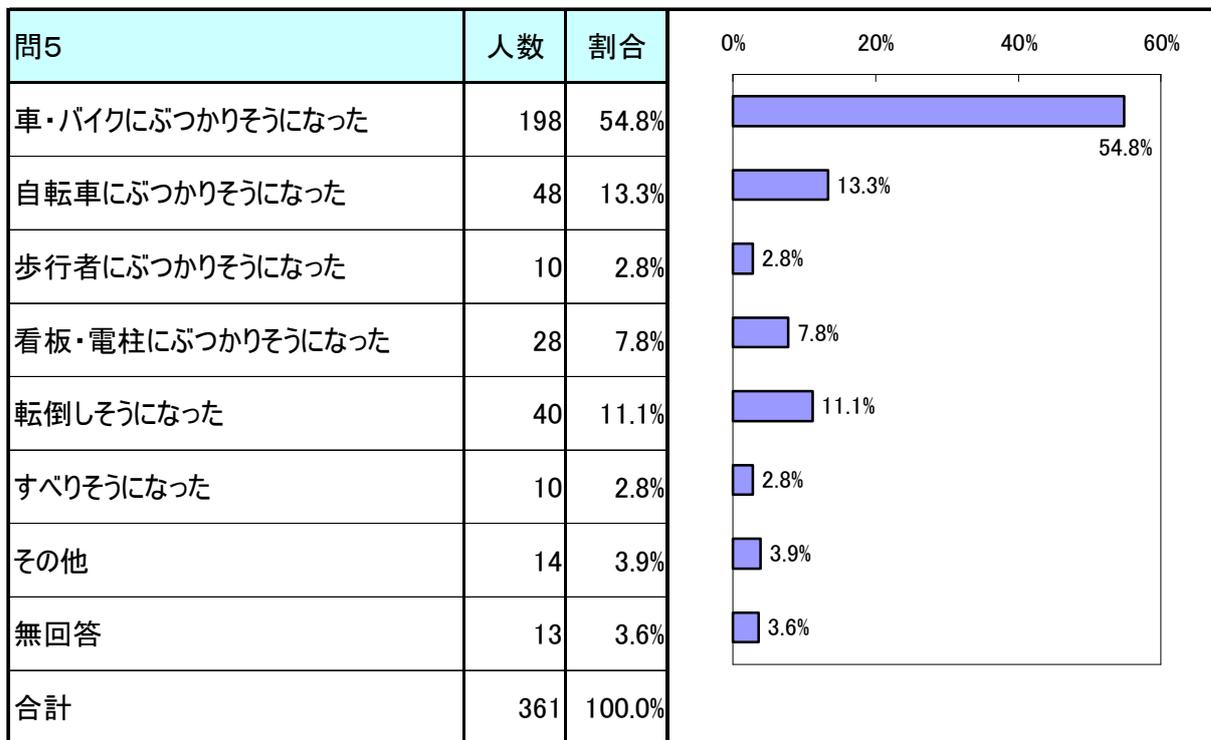
性別では、女の「歩行中」が64.0%で、男の45.4%に比べて高くなっている。また、男の「自転車に乗っていて」が36.7%で、女の18.3%に比べて高くなっている。

学年別では、小学校低学年の「歩行中」が71.2%で、小学校高学年の47.8%、中学生の38.9%に比べて高くなっている。また、中学生の「自転車に乗っていて」が44.4%、小学校高学年が36.3%で、小学校低学年の8.6%に比べて高くなっている。

問5	全体		お子さんの性別				学年					
			男		女		小学校低学年		小学校高学年		中学生	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
歩行中	195	54.0%	89	45.4%	105	64.0%	99	71.2%	54	47.8%	42	38.9%
自転車に乗っていて	102	28.3%	72	36.7%	30	18.3%	12	8.6%	41	36.3%	48	44.4%
車に乗っていて	11	3.0%	7	3.6%	4	2.4%	6	4.3%	2	1.8%	3	2.8%
その他	12	3.3%	11	5.6%	1	0.6%	4	2.9%	5	4.4%	3	2.8%
無回答	41	11.4%	17	8.7%	24	14.6%	18	12.9%	11	9.7%	12	11.1%
合計	361	100.0%	196	100.0%	164	100.0%	139	100.0%	113	100.0%	108	100.0%

問5 何でヒヤリとしましたか。(ひとつに○)

【交通事故】



何で交通事故に遭いそうになりヒヤリとしたかについては、「車・バイクにぶつかりそうになった」が54.8%と最も多く、次いで「自転車にぶつかりそうになった」が13.3%、「転倒しそうになった」が11.1%となっている。

「その他」の具体的な内容としては、「雨の日の車、傘で前が見えない」、「歩道との段差にはねて車道に出そうになった」、「ブレーキが急にきかなくなった」等が挙げられた。

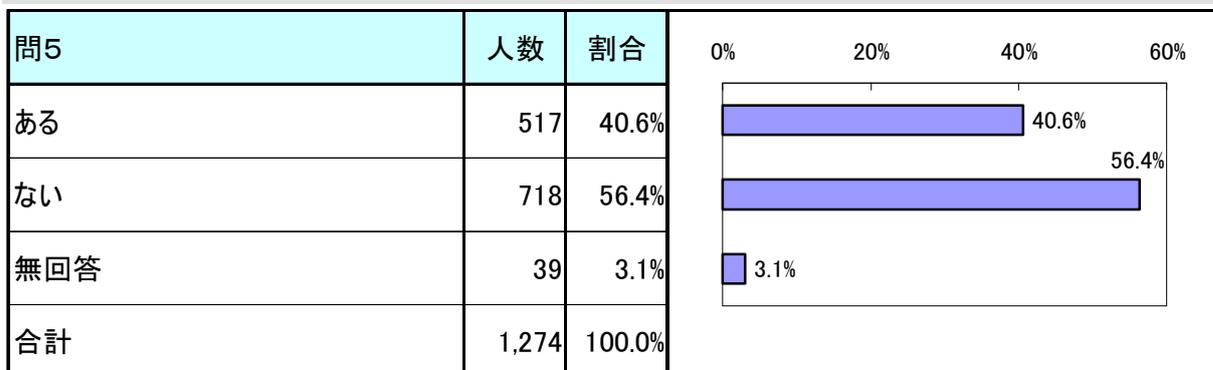
【属性別特徴】

性別では、女の「転倒しそうになった」が14.0%で、男の8.7%に比べてやや高くなっている。

学年別では、小学校高学年の「転倒しそうになった」が17.7%で、小学校低学年の7.2%、中学生の9.3%に比べてやや高くなっている。

問5	全体		お子さんの性別				学年					
			男		女		小学校低学年		小学校高学年		中学生	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
車・バイクにぶつかりそうになった	198	54.8%	112	57.1%	85	51.8%	78	56.1%	61	54.0%	59	54.6%
自転車にぶつかりそうになった	48	13.3%	22	11.2%	26	15.9%	22	15.8%	13	11.5%	12	11.1%
歩行者にぶつかりそうになった	10	2.8%	6	3.1%	4	2.4%	6	4.3%	2	1.8%	2	1.9%
看板・電柱にぶつかりそうになった	28	7.8%	18	9.2%	10	6.1%	8	5.8%	10	8.8%	10	9.3%
転倒しそうになった	40	11.1%	17	8.7%	23	14.0%	10	7.2%	20	17.7%	10	9.3%
すべりそうになった	10	2.8%	5	2.6%	5	3.0%	2	1.4%	1	0.9%	7	6.5%
その他	14	3.9%	9	4.6%	5	3.0%	8	5.8%	3	2.7%	3	2.8%
無回答	13	3.6%	7	3.6%	6	3.7%	5	3.6%	3	2.7%	5	4.6%
合計	361	100.0%	196	100.0%	164	100.0%	139	100.0%	113	100.0%	108	100.0%

問5 対象のお子さんが、この1年間にもう少しで「事故やけが」に遭いそうになりヒヤリとしたことはありますか。(ひとつに○) 【転倒】



転倒しそうになりヒヤリとしたことについては、「ある」が40.6%、「ない」が56.4%となっている。

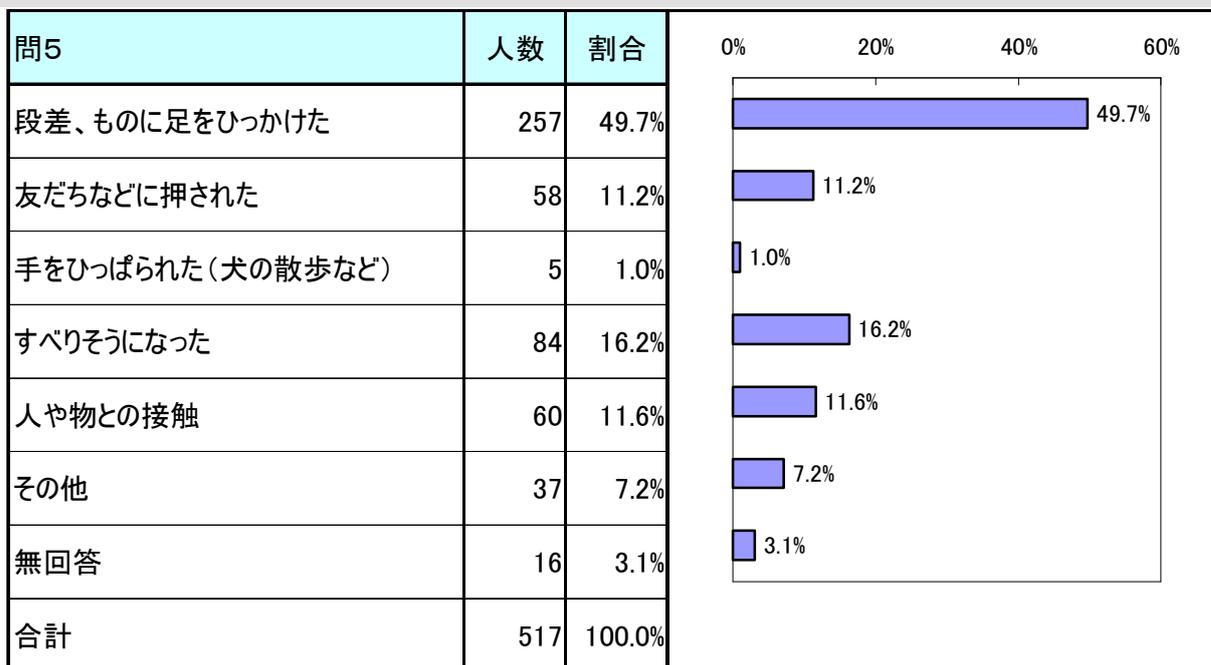
【属性別特徴】

性別では、大きな違いはみられない。

学年別では、小学校高学年と中学生で「ない」の割合が「ある」に比べ高いのに対し、小学校低学年では「ある」と「ない」がほぼ同じ割合になっている。

問5	全体		お子さんの性別				学年					
			男		女		小学校低学年		小学校高学年		中学生	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
ある	517	40.6%	264	41.6%	250	39.5%	203	48.6%	175	40.0%	138	33.3%
ない	718	56.4%	350	55.1%	365	57.7%	204	48.8%	249	56.8%	263	63.4%
無回答	39	3.1%	21	3.3%	18	2.8%	11	2.6%	14	3.2%	14	3.4%
合計	1,274	100.0%	635	100.0%	633	100.0%	418	100.0%	438	100.0%	415	100.0%

問5 ヒヤリとした原因は何でしたか。(ひとつに○) 【転倒】



転倒しそうになった原因については、「段差、ものに足をひっかけた」が49.7%と最も多く、次いで「すべりそうになった」が16.2%、「人や物との接触」が11.6%となっている。

「その他」の具体的な内容としては、「自転車に乗っていた時」、「よそ見」等が挙げられた。

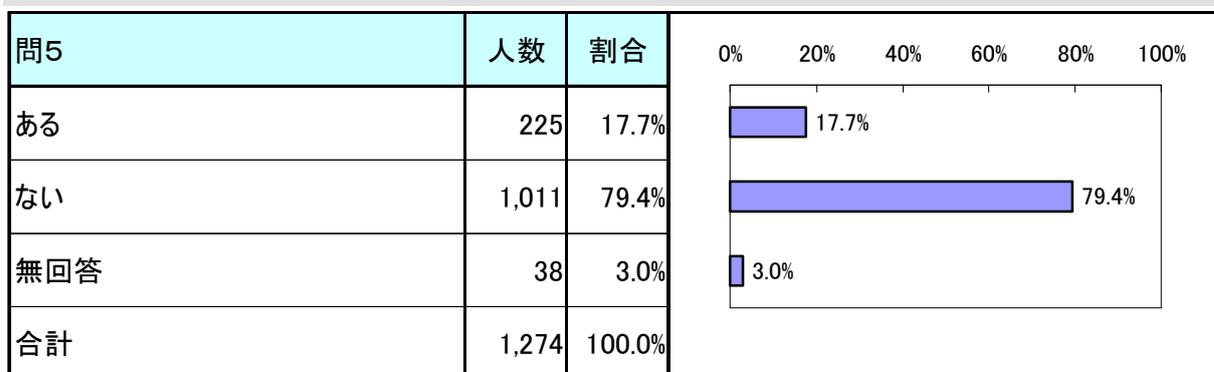
【属性別特徴】

性別では、女の「すべりそうになった」が19.2%で、男の13.6%に比べてやや高くなっている。

学年別では、小学校低学年の「友だちなどに押された」が13.8%、小学校高学年が12.6%で、中学生の5.8%に比べてやや高くなっている。

問5	全体		お子さんの性別				学年					
			男		女		小学校低学年		小学校高学年		中学生	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
段差、ものに足をひっかけた	257	49.7%	133	50.4%	123	49.2%	103	50.7%	83	47.4%	71	51.4%
友だちなどに押された	58	11.2%	36	13.6%	21	8.4%	28	13.8%	22	12.6%	8	5.8%
手をひっぱられた(犬の散歩など)	5	1.0%	0	0.0%	5	2.0%	2	1.0%	2	1.1%	1	0.7%
すべりそうになった	84	16.2%	36	13.6%	48	19.2%	27	13.3%	28	16.0%	29	21.0%
人や物との接触	60	11.6%	32	12.1%	28	11.2%	23	11.3%	21	12.0%	15	10.9%
その他	37	7.2%	16	6.1%	20	8.0%	11	5.4%	14	8.0%	12	8.7%
無回答	16	3.1%	11	4.2%	5	2.0%	9	4.4%	5	2.9%	2	1.4%
合計	517	100.0%	264	100.0%	250	100.0%	203	100.0%	175	100.0%	138	100.0%

問5 対象のお子さんが、この1年間にもう少しで「事故やけが」に遭いそうになりヒヤリとしたことはありますか。(ひとつに○) 【やけど】



やけどしそうになりヒヤリとしたことについては、「ある」が17.7%、「ない」が79.4%となっている。

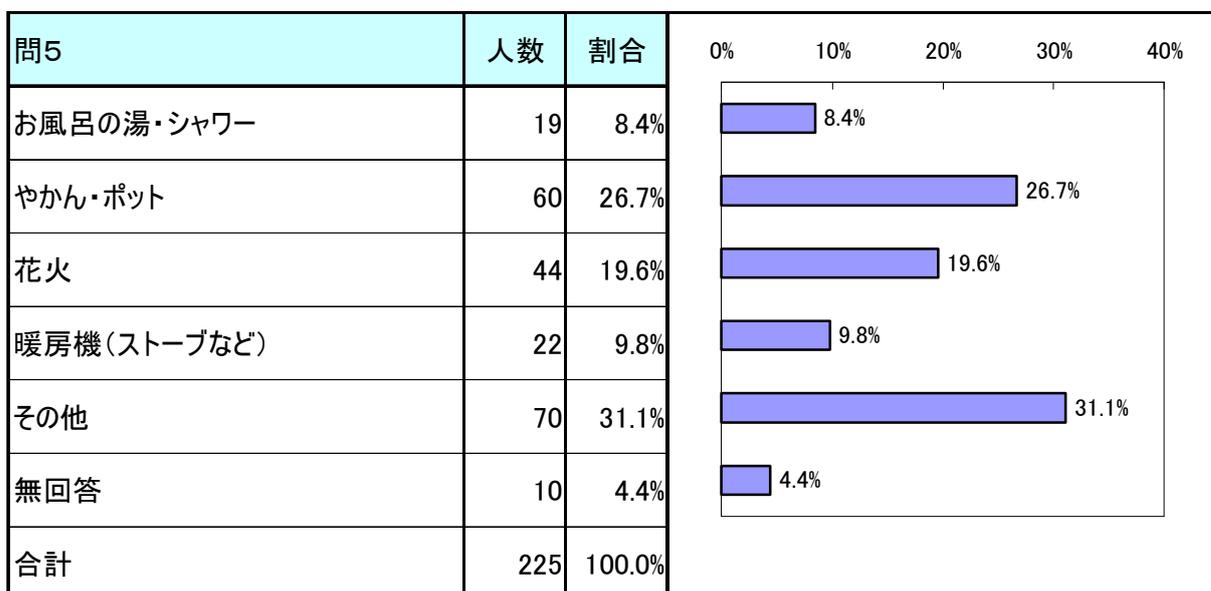
【属性別特徴】

性別では、女の「ある」が20.2%で、男の15.3%に比べてやや高くなっている。

学年別では、小学校高学年の「ある」が20.3%、小学校低学年が20.1%で、中学生の12.3%に比べてやや高くなっている。

問5	全体		お子さんの性別				学年					
			男		女		小学校低学年		小学校高学年		中学生	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
ある	225	17.7%	97	15.3%	128	20.2%	84	20.1%	89	20.3%	51	12.3%
ない	1,011	79.4%	518	81.6%	487	76.9%	324	77.5%	335	76.5%	350	84.3%
無回答	38	3.0%	20	3.1%	18	2.8%	10	2.4%	14	3.2%	14	3.4%
合計	1,274	100.0%	635	100.0%	633	100.0%	418	100.0%	438	100.0%	415	100.0%

問5 ヒヤリとした原因は何でしたか。(ひとつに○) 【やけど】



やけどしそうな原因については、「やかん・ポット」が26.7%と最も多く、次いで「花火」が19.6%、「暖房機（ストーブなど）」が9.8%となっている。

「その他」の具体的な内容としては、「アイロン」、「料理中（の手伝い）」等が挙げられた。

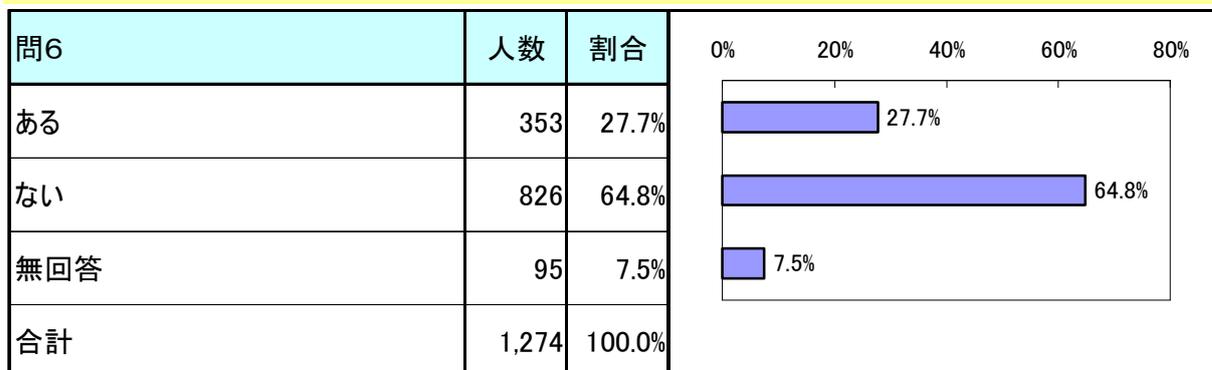
【属性別特徴】

性別では、女の「やかん・ポット」が32.0%で、男の19.6%に比べて高くなっている。また、男の「花火」が23.7%で、女の16.4%に比べてやや高くなっている。

学年別では、小学校低学年の「花火」が26.2%で、小学校高学年の18.0%、中学生の11.8%に比べてやや高くなっている。

問5	全体		お子さんの性別				学年					
			男		女		小学校低学年		小学校高学年		中学生	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
お風呂の湯・シャワー	19	8.4%	10	10.3%	9	7.0%	9	10.7%	7	7.9%	3	5.9%
やかん・ポット	60	26.7%	19	19.6%	41	32.0%	18	21.4%	25	28.1%	16	31.4%
花火	44	19.6%	23	23.7%	21	16.4%	22	26.2%	16	18.0%	6	11.8%
暖房機(ストーブなど)	22	9.8%	11	11.3%	11	8.6%	10	11.9%	4	4.5%	8	15.7%
その他	70	31.1%	29	29.9%	41	32.0%	21	25.0%	34	38.2%	15	29.4%
無回答	10	4.4%	5	5.2%	5	3.9%	4	4.8%	3	3.4%	3	5.9%
合計	225	100.0%	97	100.0%	128	100.0%	84	100.0%	89	100.0%	51	100.0%

問6 対象のお子さんは、この1年間（平成23年8月～平成24年7月）に「事故やけが」の経験がありますか。（ひとつに○）



1年間の事故やけがの経験については、「ある」が27.7%、「ない」が64.8%となっている。

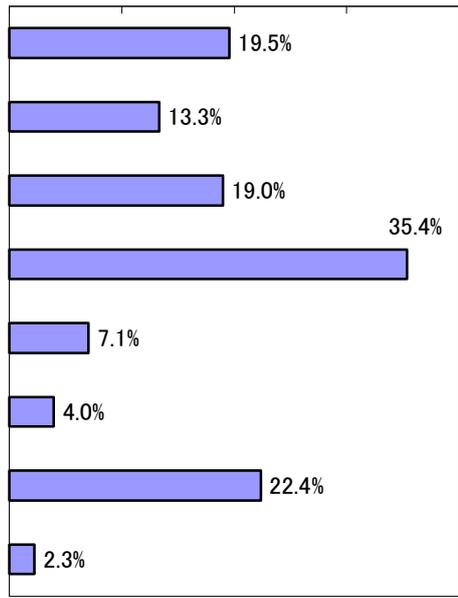
【属性別特徴】

性別では、男の「ある」が31.3%で、女の24.3%に比べてやや高くなっている。学年別では、大きな違いはみられない。

問6	全体		お子さんの性別				学年					
			男		女		小学校低学年		小学校高学年		中学生	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
ある	353	27.7%	199	31.3%	154	24.3%	123	29.4%	122	27.9%	108	26.0%
ない	826	64.8%	389	61.3%	432	68.2%	269	64.4%	276	63.0%	278	67.0%
無回答	95	7.5%	47	7.4%	47	7.4%	26	6.2%	40	9.1%	29	7.0%
合計	1,274	100.0%	635	100.0%	633	100.0%	418	100.0%	438	100.0%	415	100.0%

問7 対象のお子さんのこの1年間（平成23年8月～平成24年7月）にあった事故やけがについて、ア：活動状況、イ：場所、ウ：種類、エ：けがの状態、オ：医療機関の受診の状況、カ：その事故やけがを未然に防ぐことができた可能性を、それぞれ1つずつ、該当する番号でご回答ください。事故やけがの経験が複数ある場合は、最大2件までご回答ください。

問7 ア 事故やけがをしたときの活動状況

問7 ア	件数	割合	0%	10%	20%	30%	40%
登下校中	69	19.5%					
授業中	47	13.3%					
少年団・部活動	67	19.0%					
遊び(スポーツを含む)	125	35.4%					
お手伝い	25	7.1%					
趣味活動	14	4.0%					
その他	79	22.4%					
無回答	8	2.3%					
回答人数	353						
回答件数(1件目と2件目)合計	434						

事故やけがをしたときの活動状況については、「遊び(スポーツを含む)」が35.4%と最も多く、次いで「登下校中」が19.5%、「少年団・部活動」が19.0%となっている。

「その他」の具体的な内容としては、「休み時間」、「食事中」等が挙げられた。

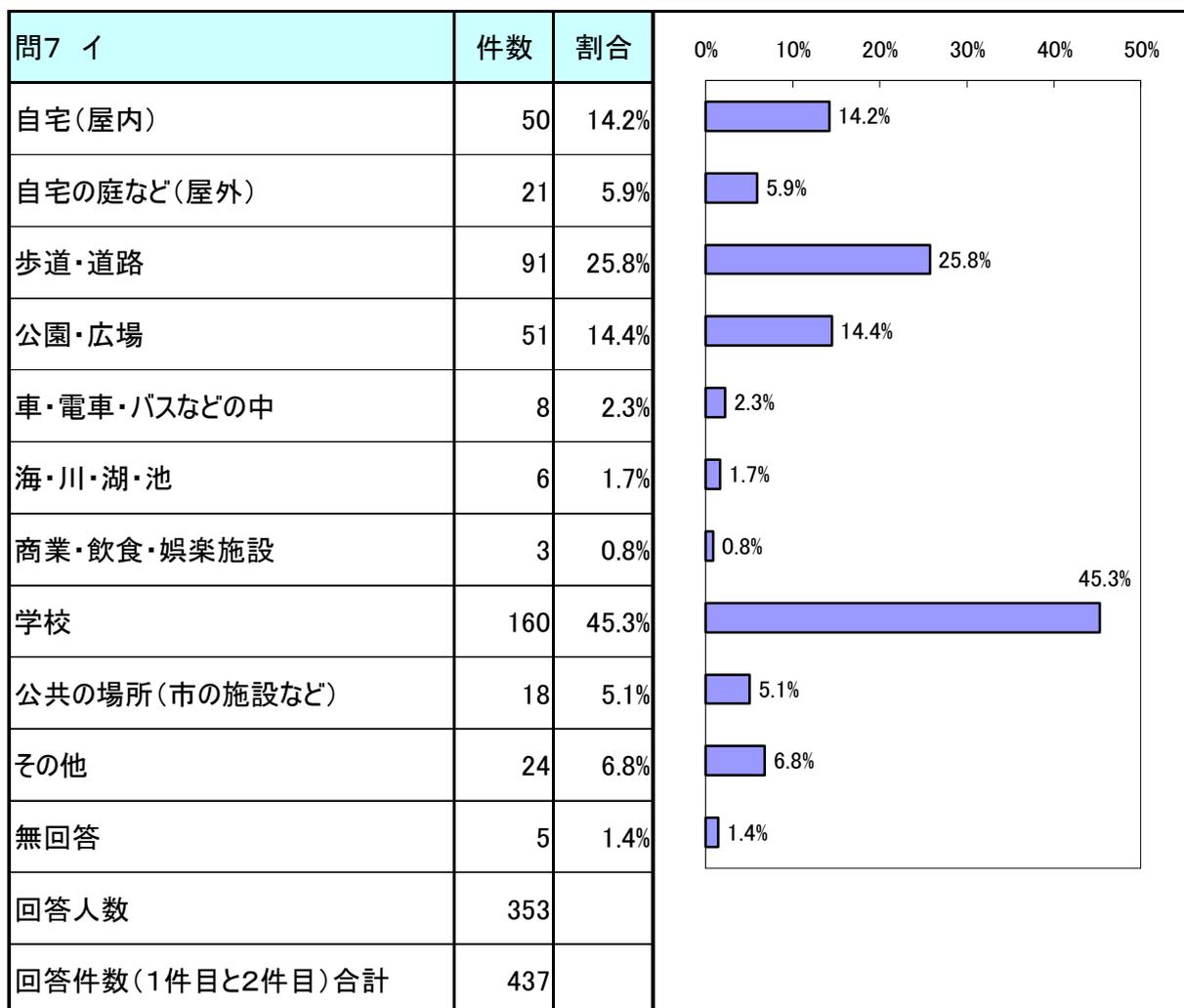
【属性別特徴】

性別では、女の「お手伝い」が12.3%で、男の3.0%に比べてやや高くなっている。

学年別では、中学生の「少年団・部活動」が38.9%で、小学校低学年の5.7%、小学校高学年の14.8%に比べて高くなっている。また、小学校低学年の「遊び（スポーツを含む）」が46.3%、小学校高学年が36.9%で、中学生の21.3%に比べて高くなっている。

問7 ア	全体		お子さんの性別				学年					
			男		女		小学校低学年		小学校高学年		中学生	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
登下校中	69	19.5%	36	18.1%	33	21.4%	25	20.3%	31	25.4%	13	12.0%
授業中	47	13.3%	19	9.5%	28	18.2%	15	12.2%	15	12.3%	17	15.7%
少年団・部活動	67	19.0%	37	18.6%	30	19.5%	7	5.7%	18	14.8%	42	38.9%
遊び(スポーツを含む)	125	35.4%	73	36.7%	52	33.8%	57	46.3%	45	36.9%	23	21.3%
お手伝い	25	7.1%	6	3.0%	19	12.3%	9	7.3%	10	8.2%	6	5.6%
趣味活動	14	4.0%	9	4.5%	5	3.2%	4	3.3%	2	1.6%	8	7.4%
その他	79	22.4%	45	22.6%	34	22.1%	30	24.4%	31	25.4%	18	16.7%
無回答	8	2.3%	7	3.5%	1	0.6%	3	2.4%	2	1.6%	3	2.8%
回答人数	353		199		154		123		122		108	
回答件数(1件目と2件目)合計	434		232		202		150		154		130	

問7 イ 事故やけがをした場所



事故やけがをした場所については、「学校」が45.3%と最も多く、次いで「歩道・道路」が25.8%、「公園・広場」が14.4%となっている。

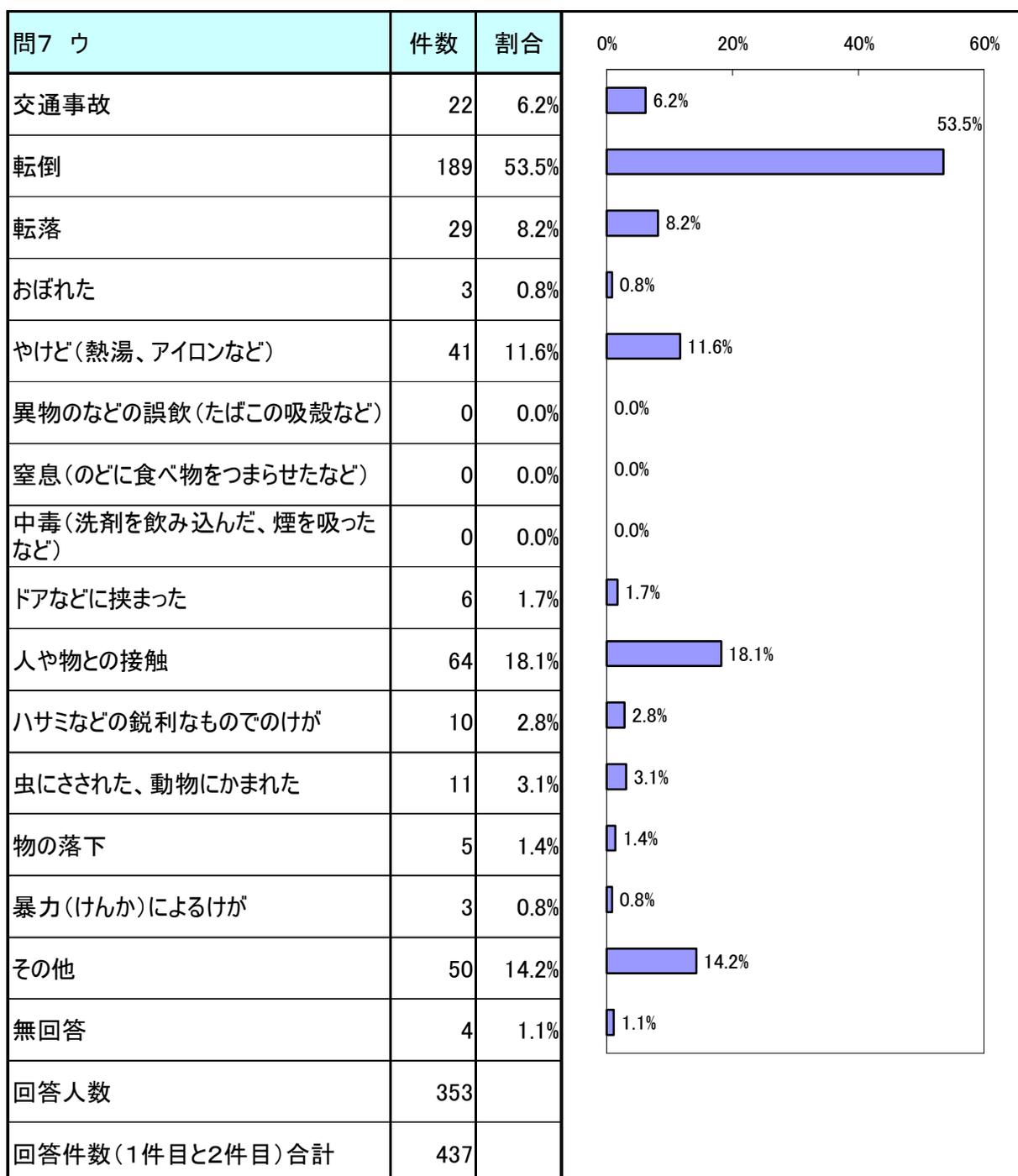
【属性別特徴】

性別では、女の「学校」が55.2%で、男の37.7%に比べて高くなっている。また、女の「自宅（屋内）」が20.1%で、男の9.5%に比べて高くなっている。

学年別では、中学生の「学校」が61.1%で、小学校低学年の35.0%、小学校高学年の41.8%に比べて高くなっている。また、小学校低学年の「自宅の庭など（屋外）」が13.8%で、小学校高学年の2.5%、中学生の0.9%に比べて高くなっている。

問7 イ	全体		お子さんの性別				学年					
			男		女		小学校低学年		小学校高学年		中学生	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
自宅(屋内)	50	14.2%	19	9.5%	31	20.1%	19	15.4%	19	15.6%	12	11.1%
自宅の庭など(屋外)	21	5.9%	14	7.0%	7	4.5%	17	13.8%	3	2.5%	1	0.9%
歩道・道路	91	25.8%	58	29.1%	33	21.4%	31	25.2%	38	31.1%	22	20.4%
公園・広場	51	14.4%	32	16.1%	19	12.3%	16	13.0%	24	19.7%	11	10.2%
車・電車・バスなどの中	8	2.3%	4	2.0%	4	2.6%	3	2.4%	1	0.8%	4	3.7%
海・川・湖・池	6	1.7%	2	1.0%	4	2.6%	2	1.6%	2	1.6%	2	1.9%
商業・飲食・娯楽施設	3	0.8%	1	0.5%	2	1.3%	3	2.4%	0	0.0%	0	0.0%
学校	160	45.3%	75	37.7%	85	55.2%	43	35.0%	51	41.8%	66	61.1%
公共の場所(市の施設など)	18	5.1%	9	4.5%	9	5.8%	6	4.9%	5	4.1%	7	6.5%
その他	24	6.8%	15	7.5%	9	5.8%	11	8.9%	10	8.2%	3	2.8%
無回答	5	1.4%	5	2.5%	0	0.0%	2	1.6%	1	0.8%	2	1.9%
回答人数	353		199		154		123		122		108	
回答件数(1件目と2件目)合計	437		234		203		153		154		130	

問7 ウ 事故やけがの種類



事故やけがの種類については、「転倒」が53.5%と最も多く、次いで「人や物との接触」が18.1%、「やけど(熱湯、アイロンなど)」が11.6%となっている。

「その他」の具体的な内容としては、「ボールが当たった」等が挙げられた。

【属性別特徴】

性別では、女の「やけど（熱湯、アイロンなど）」が18.2%で、男の6.5%に比べて高くなっている。

学年別では、小学校低学年の「転倒」が59.3%、小学校高学年が59.0%で、中学生の40.7%に比べて高くなっている。

問7 ウ	全体		お子さんの性別				学年					
			男		女		小学校低学年		小学校高学年		中学生	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
交通事故	22	6.2%	18	9.0%	4	2.6%	7	5.7%	5	4.1%	10	9.3%
転倒	189	53.5%	107	53.8%	82	53.2%	73	59.3%	72	59.0%	44	40.7%
転落	29	8.2%	12	6.0%	17	11.0%	15	12.2%	11	9.0%	3	2.8%
おぼれた	3	0.8%	0	0.0%	3	1.9%	3	2.4%	0	0.0%	0	0.0%
やけど(熱湯、アイロンなど)	41	11.6%	13	6.5%	28	18.2%	12	9.8%	20	16.4%	9	8.3%
異物のなどの誤飲(たばこの吸殻など)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
窒息(のどに食べ物をつまらせたなど)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
中毒(洗剤を飲み込んだ、煙を吸ったなど)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
ドアに挟まった	6	1.7%	1	0.5%	5	3.2%	2	1.6%	3	2.5%	1	0.9%
人や物との接触	64	18.1%	40	20.1%	24	15.6%	20	16.3%	18	14.8%	26	24.1%
ハサミなどの鋭利なものでのけが	10	2.8%	5	2.5%	5	3.2%	2	1.6%	5	4.1%	3	2.8%
虫にさされた、動物にかまれた	11	3.1%	4	2.0%	7	4.5%	5	4.1%	2	1.6%	4	3.7%
物の落下	5	1.4%	1	0.5%	4	2.6%	1	0.8%	2	1.6%	2	1.9%
暴力(けんか)によるけが	3	0.8%	2	1.0%	1	0.6%	1	0.8%	1	0.8%	1	0.9%
その他	50	14.2%	28	14.1%	22	14.3%	10	8.1%	15	12.3%	25	23.1%
無回答	4	1.1%	4	2.0%	0	0.0%	1	0.8%	1	0.8%	2	1.9%
回答人数	353		199		154		123		122		108	
回答件数(1件目と2件目)合計	437		235		202		152		155		130	

問7 エ けがの状態

問7 エ	件数	割合	
骨折・ひび	58	16.4%	16.4%
ねんざ・脱臼・突き指	42	11.9%	11.9%
打撲・うちみ	93	26.3%	26.3%
きり傷・さし傷・すり傷	168	47.6%	47.6%
やけど	41	11.6%	11.6%
さされ傷・かまれ傷	11	3.1%	3.1%
その他	15	4.2%	4.2%
無回答	8	2.3%	2.3%
回答人数	353		
回答件数(1件目と2件目)合計	436		

けがの状況については、「きり傷・さし傷・すり傷」が47.6%と最も多く、次いで「打撲・うちみ」が26.3%、「骨折・ひび」が16.4%となっている。

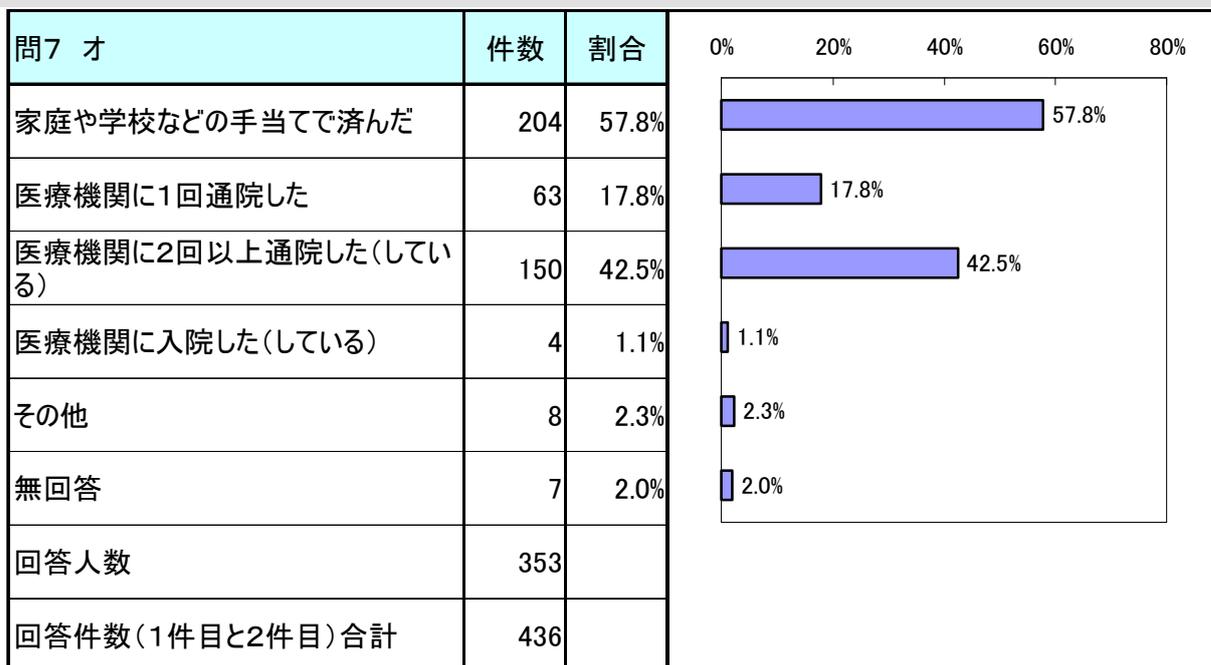
【属性別特徴】

性別では、女の「やけど」が18.2%で、男の6.5%に比べて高くなっている。

学年別では、小学校低学年の「きり傷・さし傷・すり傷」が61.0%で、小学校高学年の48.4%、中学生の31.5%に比べて高くなっている。また、小学校高学年の「骨折・ひび」が22.1%、中学生が21.3%で、小学校低学年の6.5%に比べて高くなっている。

問7 エ	全体		お子さんの性別				学年					
			男		女		小学校低学年		小学校高学年		中学生	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
骨折・ひび	58	16.4%	35	17.6%	23	14.9%	8	6.5%	27	22.1%	23	21.3%
ねんざ・脱臼・突き指	42	11.9%	24	12.1%	18	11.7%	6	4.9%	14	11.5%	22	20.4%
打撲・うちみ	93	26.3%	53	26.6%	40	26.0%	36	29.3%	29	23.8%	28	25.9%
きり傷・さし傷・すり傷	168	47.6%	90	45.2%	78	50.6%	75	61.0%	59	48.4%	34	31.5%
やけど	41	11.6%	13	6.5%	28	18.2%	13	10.6%	20	16.4%	8	7.4%
さされ傷・かまれ傷	11	3.1%	5	2.5%	6	3.9%	5	4.1%	2	1.6%	4	3.7%
その他	15	4.2%	7	3.5%	8	5.2%	6	4.9%	2	1.6%	7	6.5%
無回答	8	2.3%	7	3.5%	1	0.6%	3	2.4%	1	0.8%	4	3.7%
回答人数	353		199		154		123		122		108	
回答件数(1件目と2件目)合計	436		234		202		152		154		130	

問7 オ 医療機関の受診



医療機関の受診については、「家庭や学校などの手当てで済んだ」が57.8%と最も多く、次いで「医療機関に2回以上通院した(している)」が42.5%、「医療機関に1回通院した」が17.8%となっている。

「その他」の具体的な内容としては、「手当てするほどのけがはなかった」等が挙げられた。

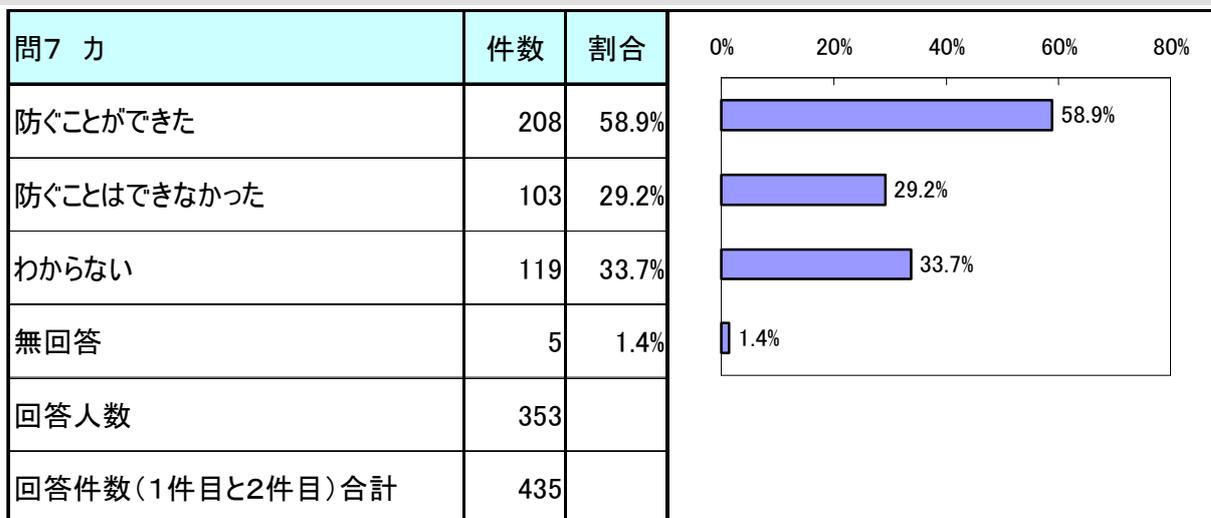
【属性別特徴】

性別では、女の「家庭や学校などの手当てで済んだ」が68.8%で、男の49.2%に比べて高くなっている。

学年別では、小学校低学年の「家庭や学校などの手当てで済んだ」が69.1%で、小学校高学年の59.0%、中学生の43.5%に比べて高くなっている。

問7 オ	全体		お子さんの性別				学年					
			男		女		小学校低学年		小学校高学年		中学生	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
家庭や学校などの手当てで済んだ	204	57.8%	98	49.2%	106	68.8%	85	69.1%	72	59.0%	47	43.5%
医療機関に1回通院した	63	17.8%	38	19.1%	25	16.2%	22	17.9%	21	17.2%	20	18.5%
医療機関に2回以上通院した(している)	150	42.5%	85	42.7%	65	42.2%	40	32.5%	57	46.7%	53	49.1%
医療機関に入院した(している)	4	1.1%	2	1.0%	2	1.3%	2	1.6%	2	1.6%	0	0.0%
その他	8	2.3%	4	2.0%	4	2.6%	0	0.0%	1	0.8%	7	6.5%
無回答	7	2.0%	7	3.5%	0	0.0%	3	2.4%	1	0.8%	3	2.8%
回答人数	353		199		154		123		122		108	
回答件数(1件目と2件目)合計	436		234		202		152		154		130	

問7 カ 未然に防ぐことができた可能性



事故やけがを未然に防ぐことができた可能性については、「防ぐことができた」が58.9%と最も多く、次いで「わからない」が33.7%、「防ぐことはできなかった」が29.2%となっている。

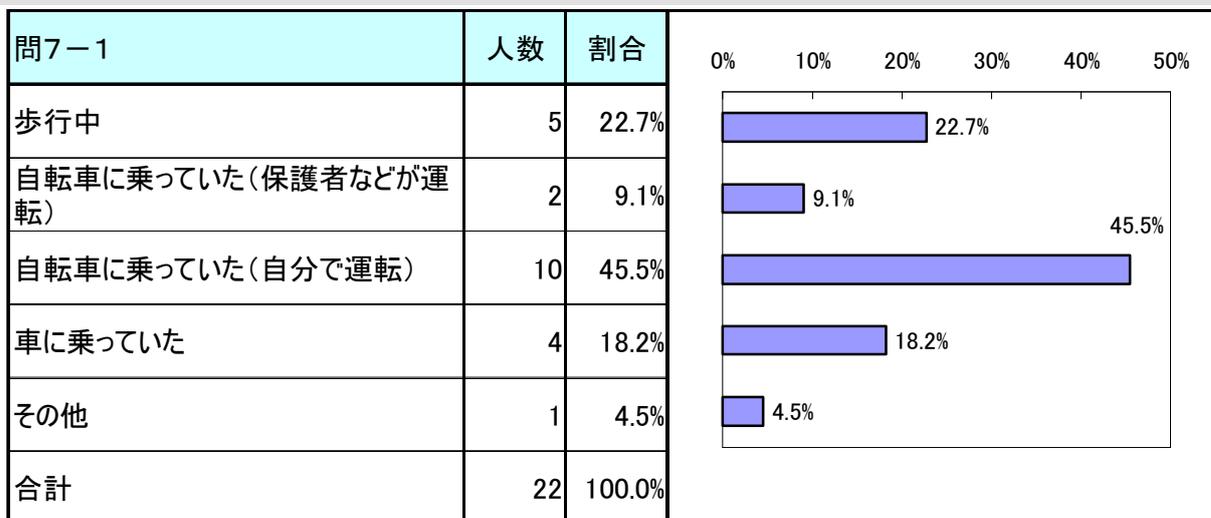
【属性別特徴】

性別では、女の「防ぐことができた」が63.6%で、男の55.3%に比べてやや高くなっている。

学年別では、小学校低学年の「防ぐことができた」が69.1%、小学校高学年が61.5%で、中学生の44.4%に比べて高くなっている。

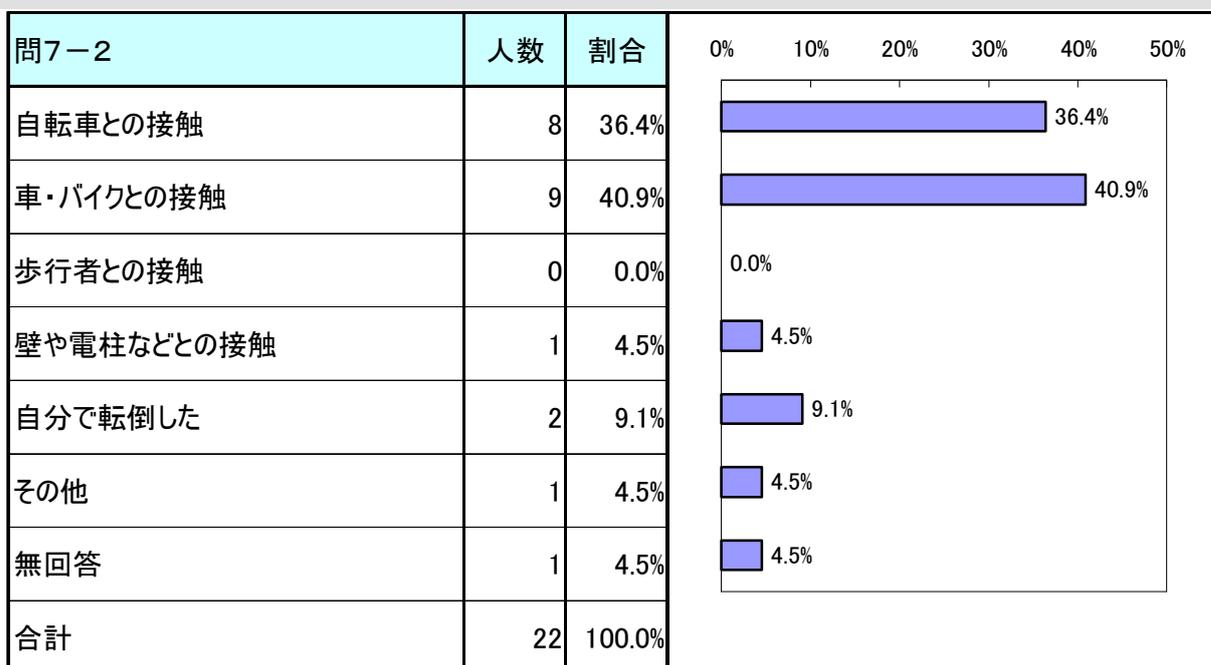
問7 カ	全体		お子さんの性別				学年					
			男		女		小学校低学年		小学校高学年		中学生	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
防ぐことができた	208	58.9%	110	55.3%	98	63.6%	85	69.1%	75	61.5%	48	44.4%
防ぐことはできなかった	103	29.2%	58	29.1%	45	29.2%	30	24.4%	31	25.4%	42	38.9%
わからない	119	33.7%	61	30.7%	58	37.7%	36	29.3%	45	36.9%	38	35.2%
無回答	5	1.4%	4	2.0%	1	0.6%	1	0.8%	2	1.6%	2	1.9%
回答人数	353		199		154		123		122		108	
回答件数(1件目と2件目)合計	435		233		202		152		153		130	

問7-1 交通事故時の対象のお子さんの状況（ひとつに○）



交通事故時の状況については、「自転車に乗っていた（自分で運転）」が45.5%と最も多く、次いで「歩行中」が22.7%、「車に乗っていた」が18.2%となっている。

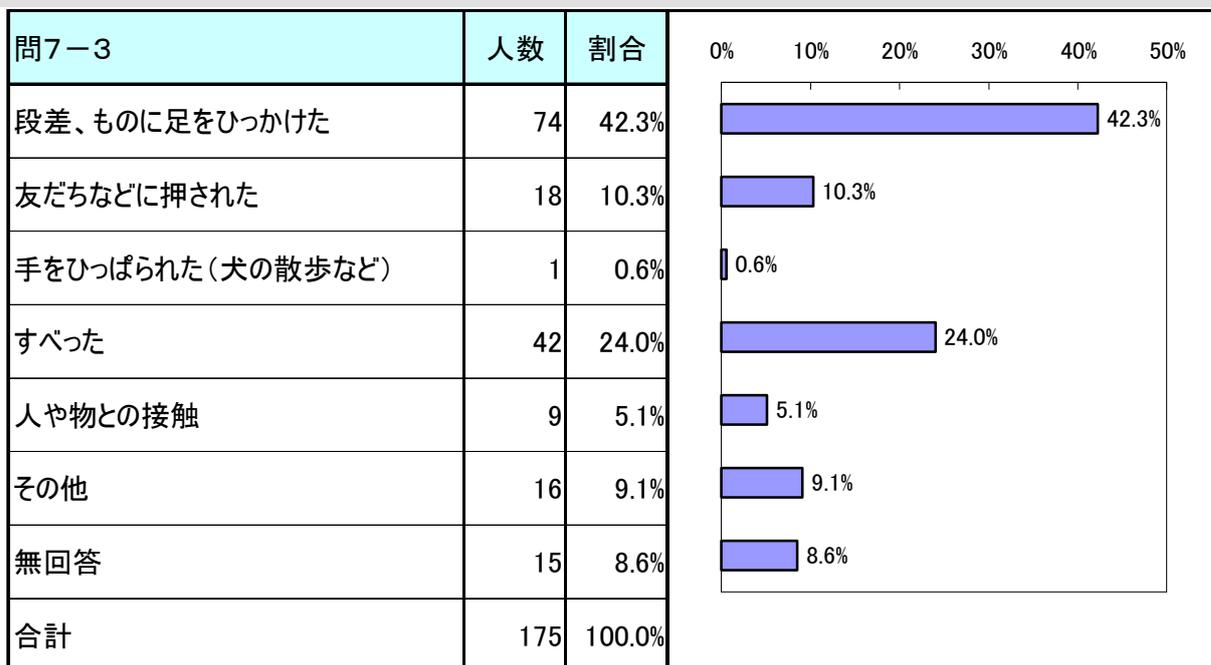
問7-2 交通事故の原因（ひとつに○）



交通事故の原因については、「車・バイクとの接触」が40.9%と最も多く、次いで「自転車との接触」が36.4%、「自分で転倒した」が9.1%となっている。

「その他」の具体的な内容としては、「灰ですべった」が挙げられた。

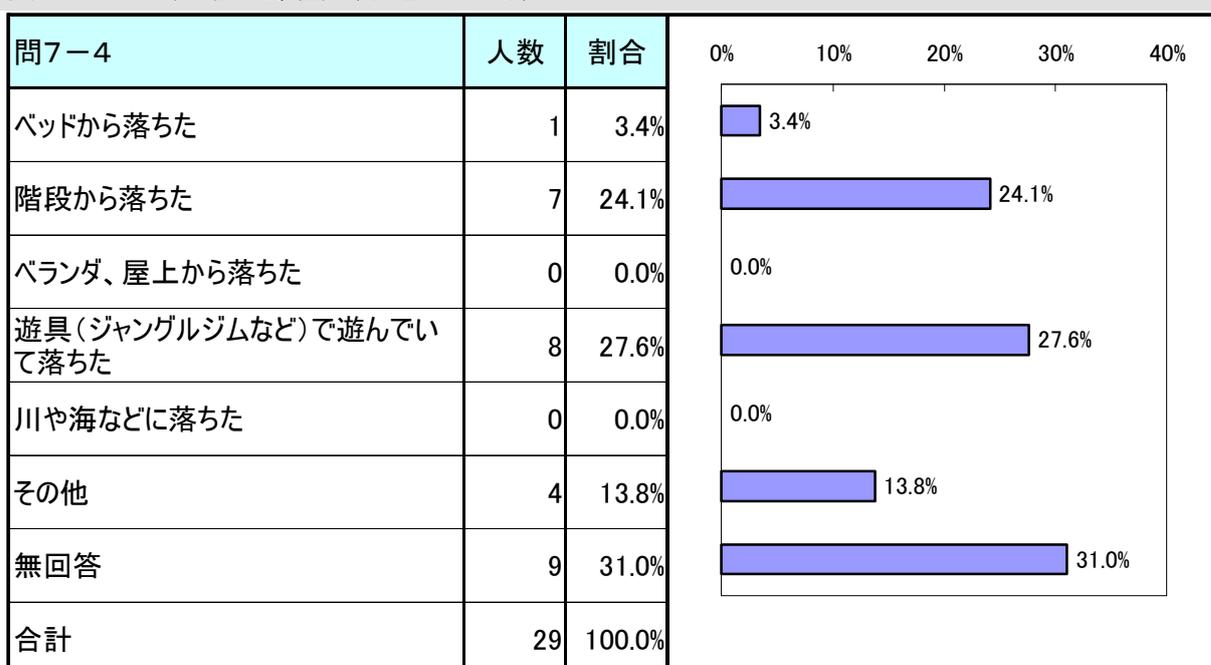
問7-3 転倒の原因 (ひとつに○)



転倒の原因については、「段差、ものに足をひっかけた」が42.3%と最も多く、次いで「すべった」が24.0%、「友だちなどに押された」が10.3%となっている。

「その他」の具体的な内容としては、「自転車で転倒」等が挙げられた。

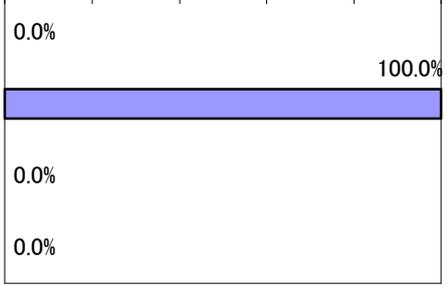
問7-4 転落の原因 (ひとつに○)



転落の原因については、「遊具(ジャングルジムなど)で遊んでいて落ちた」が27.6%と最も多く、次いで「階段から落ちた」が24.1%、「ベッドから落ちた」が3.4%となっている。

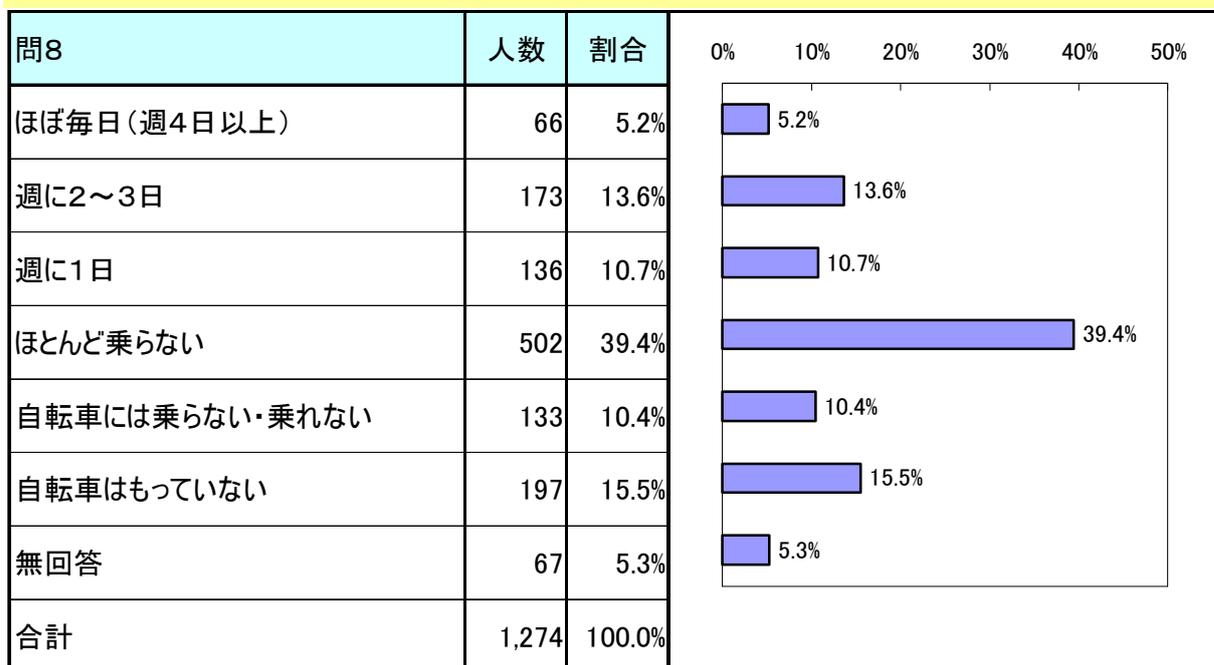
問7-5 おぼれた場所

問7-5	人数	割合	0% 20% 40% 60% 80% 100%
お風呂場	0	0.0%	0.0%
プール	3	100.0%	100.0%
海、川、湖、池	0	0.0%	0.0%
その他	0	0.0%	0.0%
合計	3	100.0%	



おぼれた場所については、「プール」が100.0%となっている。

問8 対象のお子さんは、いつもどのくらいの頻度で自転車に乗りますか。
(一番近いものひとつに○)



自転車に乗る頻度については、「ほとんど乗らない」が39.4%と最も多く、次いで「自転車はもっていない」が15.5%、「週に2~3日」が13.6%となっている。

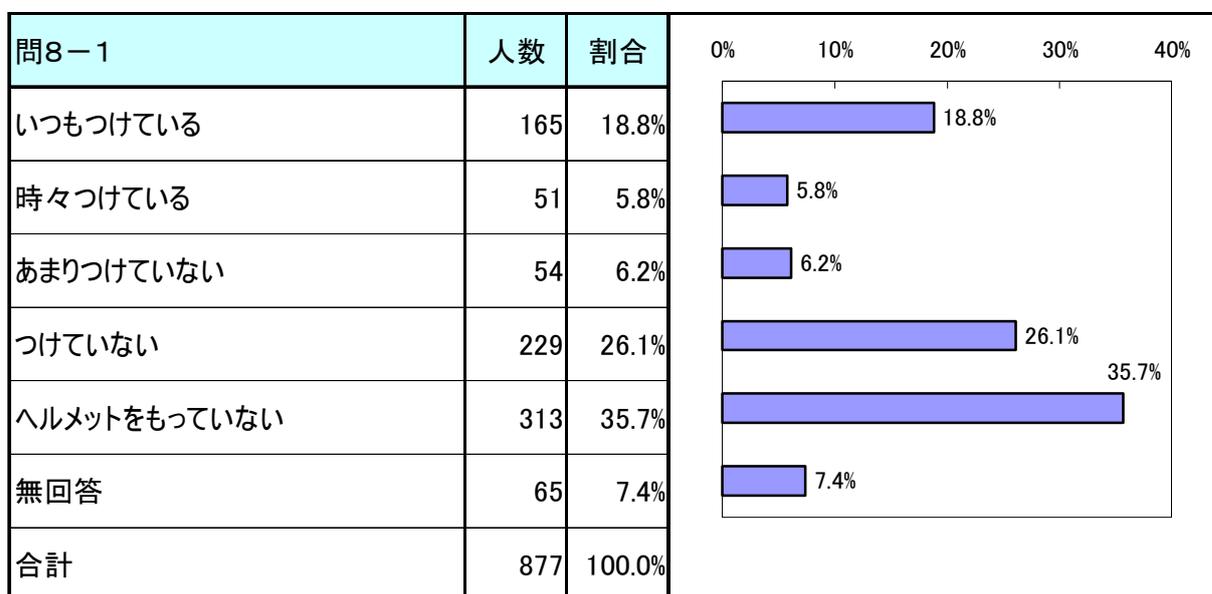
【属性別特徴】

性別では、男の「ほぼ毎日(週4日以上)」と「週に2~3日」と「週に1回」の合計が35.8%で、女の合計の23.1%に比べて高くなっている。

学年別では、小学校低学年の「自転車には乗らない・乗れない」が17.7%で、小学校高学年の7.1%、中学生の6.7%に比べて高くなっている。

問8	全体		お子さんの性別				学年					
			男		女		小学校低学年		小学校高学年		中学生	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
ほぼ毎日(週4日以上)	66	5.2%	47	7.4%	19	3.0%	8	1.9%	24	5.5%	34	8.2%
週に2~3日	173	13.6%	121	19.1%	51	8.1%	35	8.4%	66	15.1%	71	17.1%
週に1日	136	10.7%	59	9.3%	76	12.0%	45	10.8%	59	13.5%	32	7.7%
ほとんど乗らない	502	39.4%	233	36.7%	269	42.5%	175	41.9%	175	40.0%	151	36.4%
自転車には乗らない・乗れない	133	10.4%	65	10.2%	67	10.6%	74	17.7%	31	7.1%	28	6.7%
自転車はもっていない	197	15.5%	72	11.3%	123	19.4%	67	16.0%	60	13.7%	69	16.6%
無回答	67	5.3%	38	6.0%	28	4.4%	14	3.3%	23	5.3%	30	7.2%
合計	1,274	100.0%	635	100.0%	633	100.0%	418	100.0%	438	100.0%	415	100.0%

問8-1 対象のお子さんは、自転車に乗るとき、ヘルメットをつけていますか。
(ひとつに○)



ヘルメットの着用については、「ヘルメットをもっていない」が35.7%と最も多く、次いで「つけていない」が26.1%、「いつもつけている」が18.8%となっている。

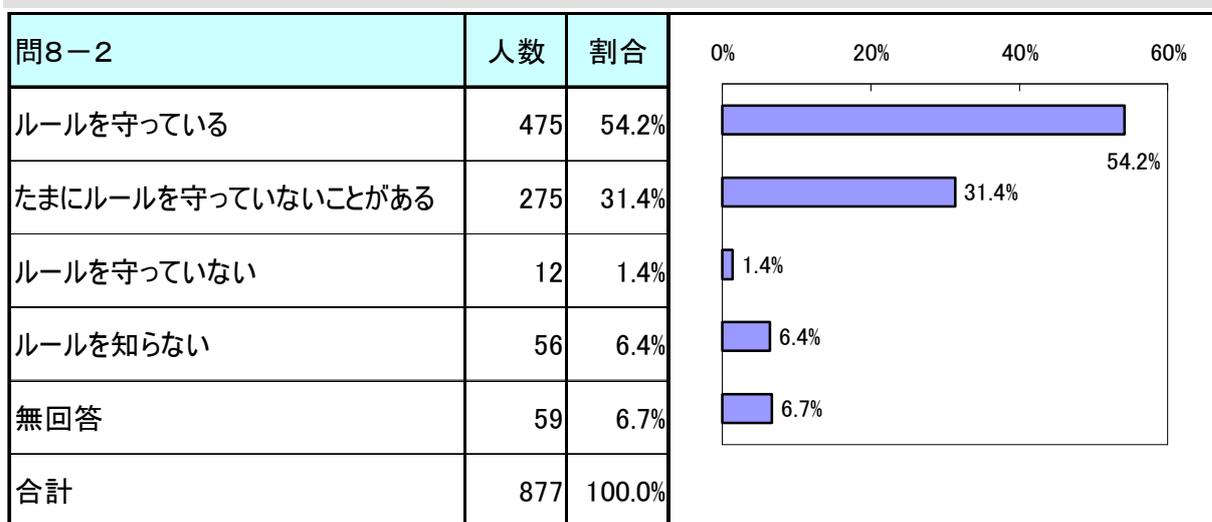
【属性別特徴】

性別では、大きな違いはみられない。

学年別では、小学校高学年の「いつもつけている」が28.7%、小学校低学年が20.9%で、中学生の5.6%に比べて高くなっている。また、中学生の「ヘルメットをもっていない」が44.1%、小学校低学年が38.0%で、小学校高学年の26.2%に比べて高くなっている。

問8-1	全体		お子さんの性別				学年					
			男		女		小学校低学年		小学校高学年		中学生	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
いつもつけている	165	18.8%	97	21.1%	68	16.4%	55	20.9%	93	28.7%	16	5.6%
時々つけている	51	5.8%	26	5.7%	24	5.8%	17	6.5%	30	9.3%	4	1.4%
あまりつけていない	54	6.2%	25	5.4%	29	7.0%	17	6.5%	25	7.7%	12	4.2%
つけていない	229	26.1%	123	26.7%	106	25.5%	57	21.7%	70	21.6%	102	35.4%
ヘルメットをもっていない	313	35.7%	164	35.7%	148	35.7%	100	38.0%	85	26.2%	127	44.1%
無回答	65	7.4%	25	5.4%	40	9.6%	17	6.5%	21	6.5%	27	9.4%
合計	877	100.0%	460	100.0%	415	100.0%	263	100.0%	324	100.0%	288	100.0%

問8-2 対象のお子さんは、ルールを守って自転車に乗っていますか。
(ひとつに○)



ルールを守って自転車に乗っているかについては、「ルールを守っている」が54.2%と最も多く、次いで「たまにルールを守っていないことがある」が31.4%、「ルールを知らない」が6.4%となっている。

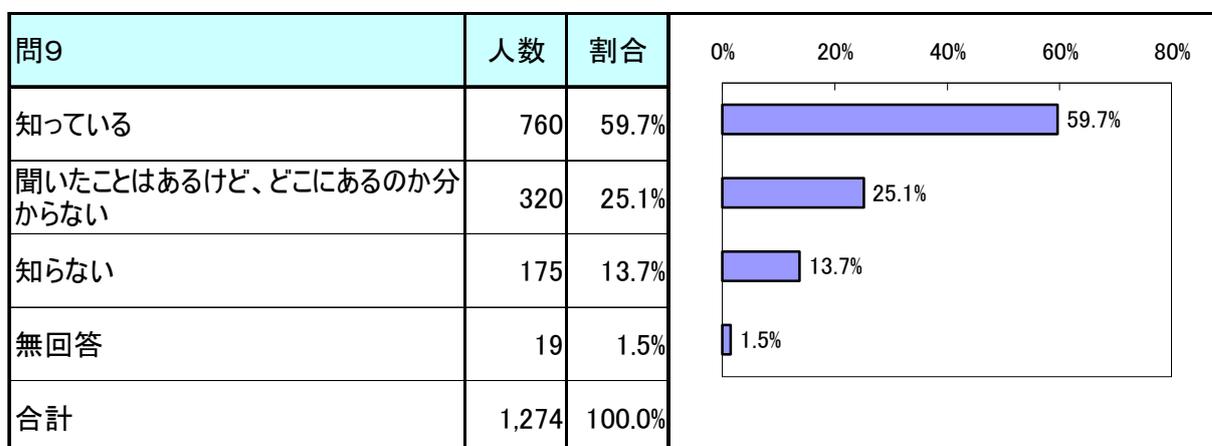
【属性別特徴】

性別では、男の「たまにルールを守っていないことがある」が37.0%で、女の25.1%に比べて高くなっている。

学年別では、小学校低学年の「ルールを知らない」が14.4%で、小学校高学年の2.8%、中学生の3.1%に比べて高くなっている。

問8-2	全体		お子さんの性別				学年					
			男		女		小学校低学年		小学校高学年		中学生	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
ルールを守っている	475	54.2%	233	50.7%	241	58.1%	136	51.7%	182	56.2%	155	53.8%
たまにルールを守っていないことがある	275	31.4%	170	37.0%	104	25.1%	65	24.7%	112	34.6%	98	34.0%
ルールを守っていない	12	1.4%	10	2.2%	2	0.5%	4	1.5%	3	0.9%	5	1.7%
ルールを知らない	56	6.4%	26	5.7%	30	7.2%	38	14.4%	9	2.8%	9	3.1%
無回答	59	6.7%	21	4.6%	38	9.2%	20	7.6%	18	5.6%	21	7.3%
合計	877	100.0%	460	100.0%	415	100.0%	263	100.0%	324	100.0%	288	100.0%

問9 対象のお子さんは、通学路や遊び場付近の「子ども 110 番の家」を知っていますか。(ひとつに○)



子ども 110 番の家の認知度については、「知っている」が 59.7%と最も多く、次いで「聞いたことはあるけど、どこにあるのか分からない」が 25.1%、「知らない」が 13.7%となっている。

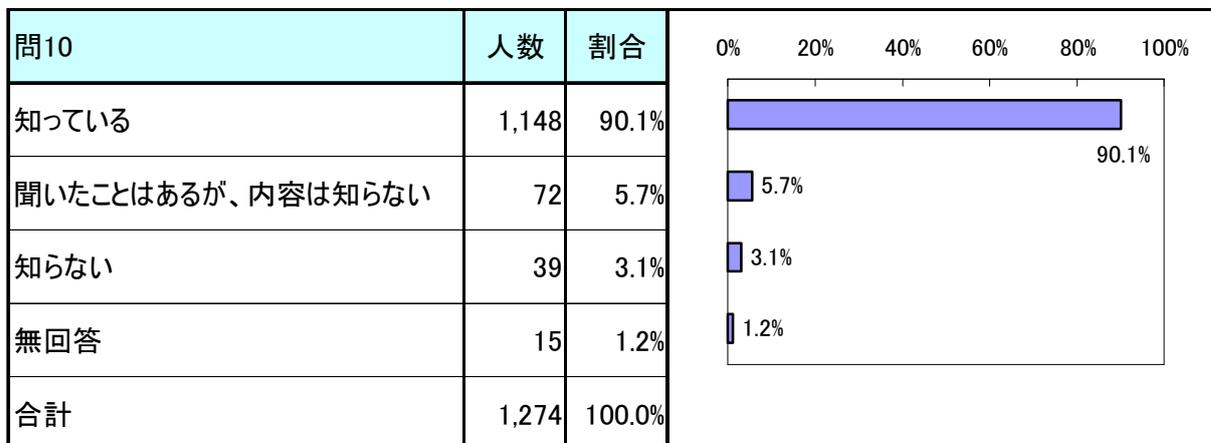
【属性別特徴】

性別では、大きな違いはみられない。

学年別では、小学校高学年の「知っている」が 69.2%、中学生が 60.2%で、小学校低学年の 48.8%に比べて高くなっている。

問9	全体		お子さんの性別				学年					
			男		女		小学校低学年		小学校高学年		中学生	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
知っている	760	59.7%	367	57.8%	390	61.6%	204	48.8%	303	69.2%	250	60.2%
聞いたことはあるけど、どこにあるのか分からない	320	25.1%	158	24.9%	159	25.1%	125	29.9%	94	21.5%	101	24.3%
知らない	175	13.7%	99	15.6%	76	12.0%	87	20.8%	35	8.0%	53	12.8%
無回答	19	1.5%	11	1.7%	8	1.3%	2	0.5%	6	1.4%	11	2.7%
合計	1,274	100.0%	635	100.0%	633	100.0%	418	100.0%	438	100.0%	415	100.0%

問10 対象のお子さんは、「いかのおすし」を知っていますか。(ひとつに○)



「いかのおすし」の認知度については、「知っている」が90.1%と最も多く、次いで「聞いたことはあるが、内容は知らない」が5.7%、「知らない」が3.1%となっている。

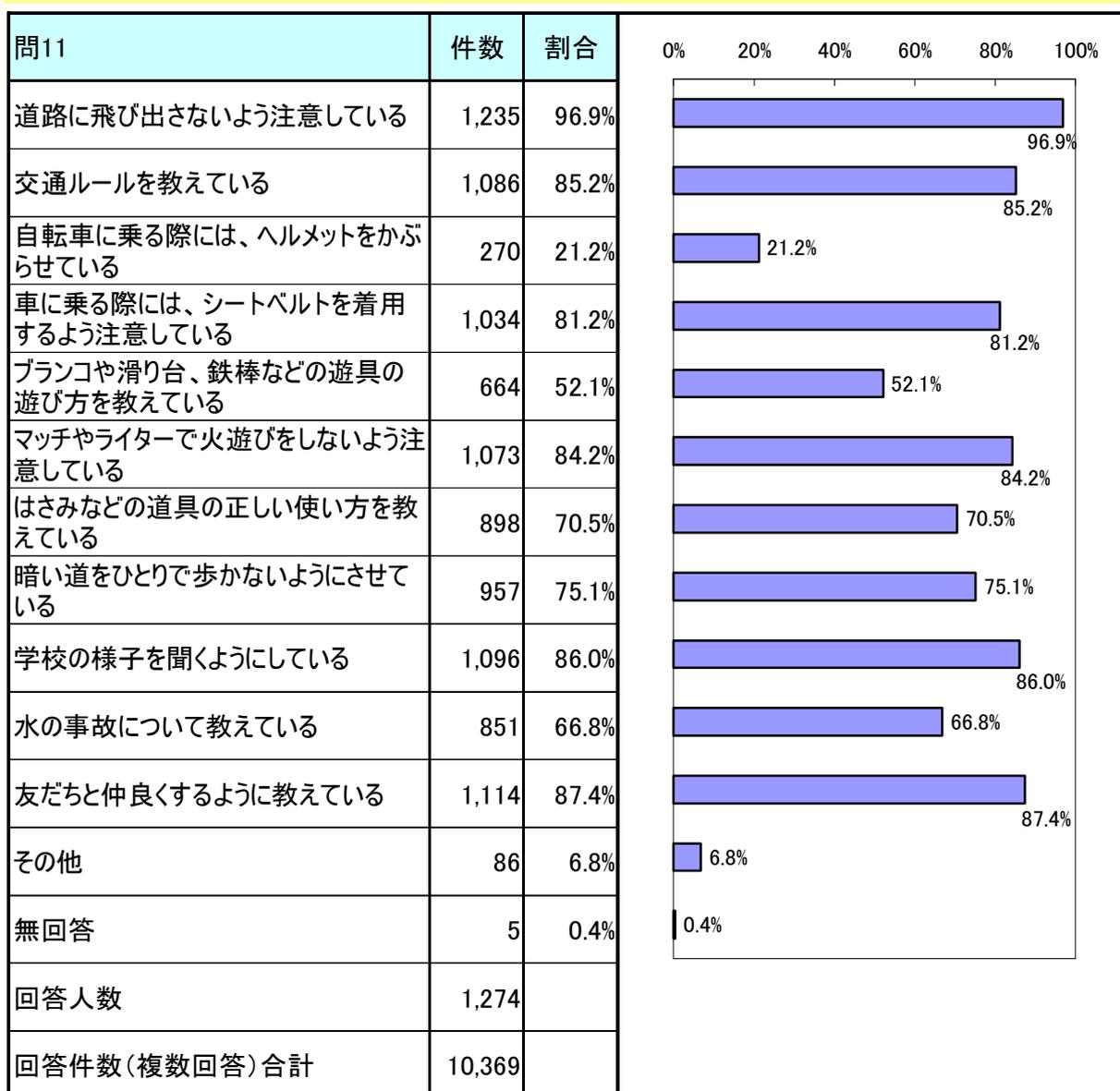
【属性別特徴】

性別では、大きな違いはみられない。

学年別では、小学校低学年の「聞いたことはあるが、内容は知らない」と「知らない」の合計が14.4%で、小学校高学年の合計の4.1%、中学生の合計の8.0%に比べてやや高くなっている。

問10	全体		お子さんの性別				学年					
			男		女		小学校低学年		小学校高学年		中学生	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
知っている	1,148	90.1%	565	89.0%	577	91.2%	352	84.2%	416	95.0%	377	90.8%
聞いたことはあるが、内容は知らない	72	5.7%	35	5.5%	37	5.8%	35	8.4%	13	3.0%	24	5.8%
知らない	39	3.1%	31	4.9%	8	1.3%	25	6.0%	5	1.1%	9	2.2%
無回答	15	1.2%	4	0.6%	11	1.7%	6	1.4%	4	0.9%	5	1.2%
合計	1,274	100.0%	635	100.0%	633	100.0%	418	100.0%	438	100.0%	415	100.0%

問 11 あなた(保護者)は、お子さんが安全に生活するために注意してきたことはありますか。(あてはまるものすべてに○)

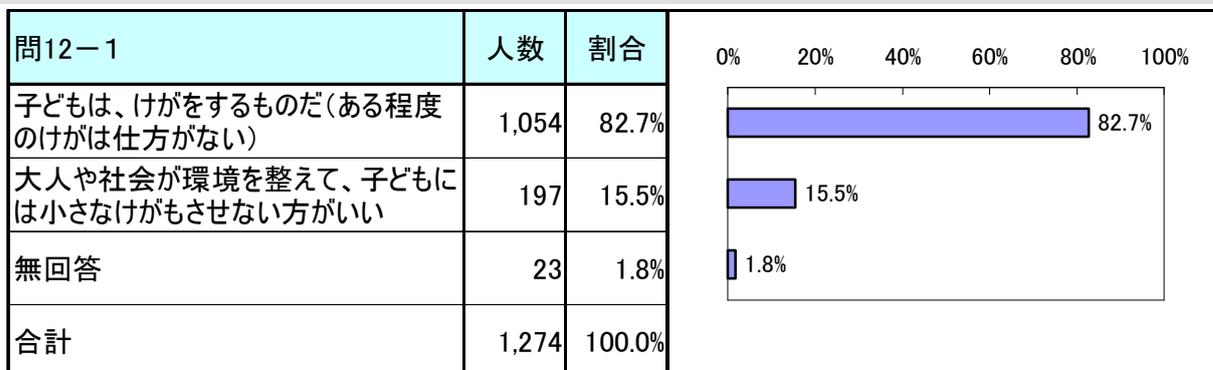


安全な生活のために注意してきたことについては、「道路に飛び出さないよう注意している」が96.9%と最も多く、次いで「友だちと仲良くするように教えている」が87.4%、「学校の様子を聞くようにしている」が86.0%となっている。

「その他」の具体的な内容としては、「知らない人には、ついていかないように話している」、「不審者に気をつける」等が挙げられた。

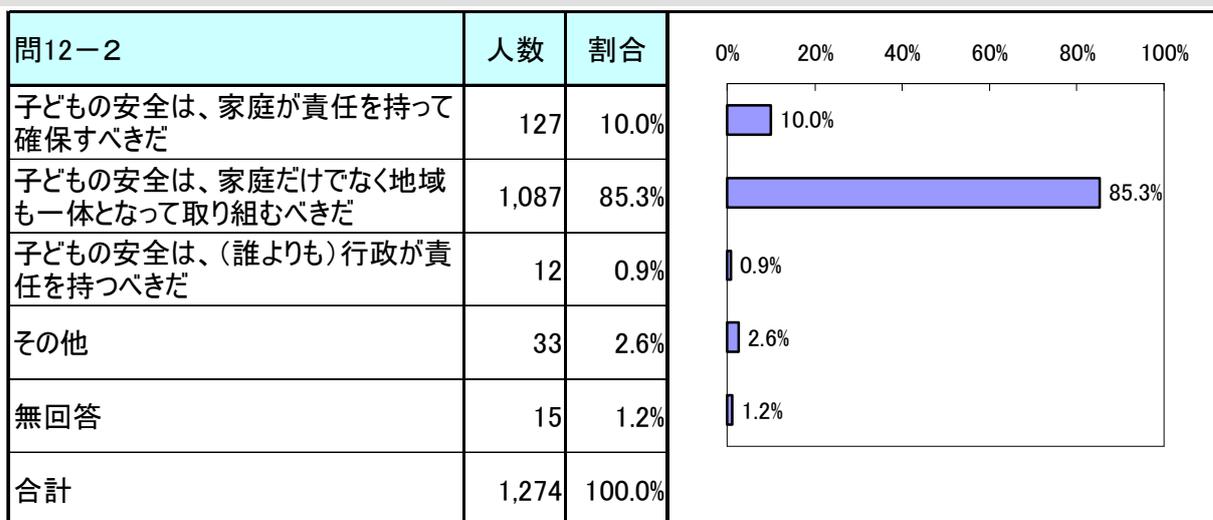
問 12 あなた(保護者)の子どもの安全に関する考え方についてお聞きします。

問 12-1 子どものけがについて (ひとつに○)



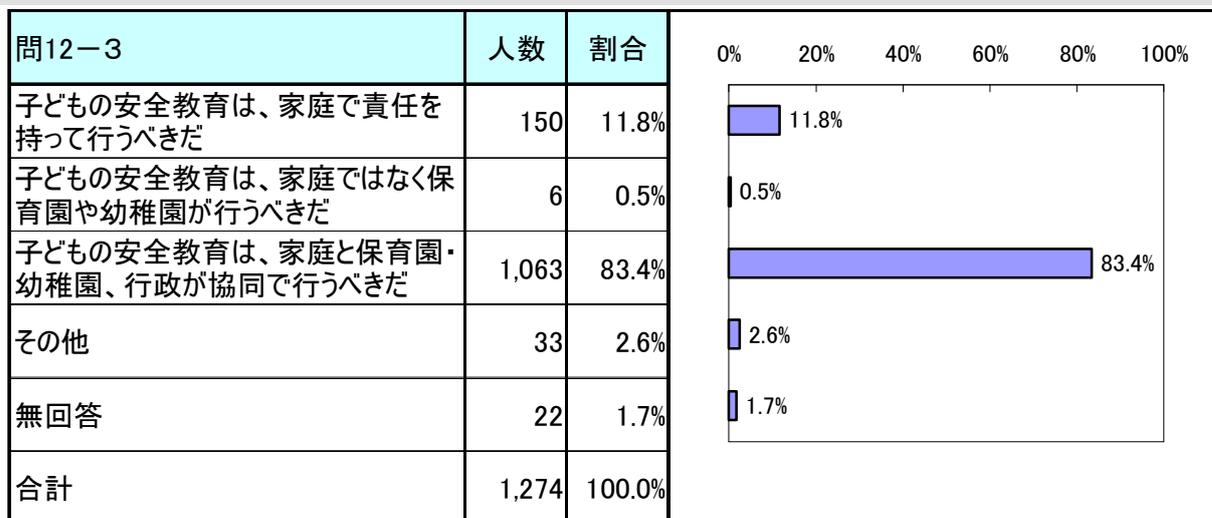
子どものけがについては、「子どもは、けがをするものだ(ある程度のけがは仕方がない)」が 82.7%、「大人や社会が環境を整えて、子どもには小さなけがもさせない方がいい」が 15.5%となっている。

問 12-2 子どもの安全について (ひとつに○)



子どもの安全についての考え方については、「子どもの安全は、家庭だけでなく地域も一体となって取り組むべきだ」が 85.3%と最も多く、次いで「子どもの安全は、家庭が責任を持って確保すべきだ」が 10.0%、「子どもの安全は、(誰よりも)行政が責任を持つべきだ」が 0.9%となっている。

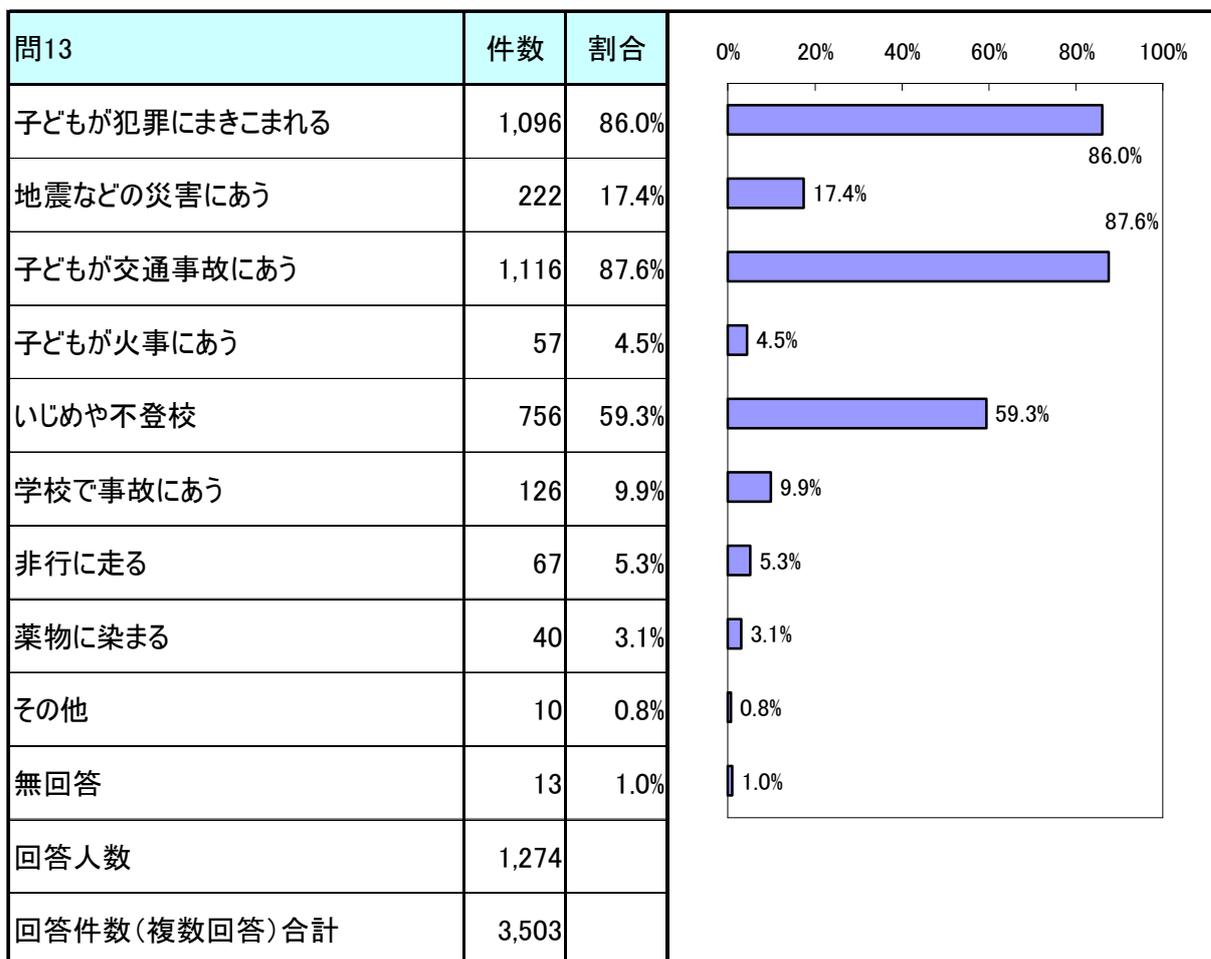
問12-3 子どもの安全教育について（ひとつに○）



子どもの安全教育についての考え方については、「子どもの安全教育は、家庭と保育園・幼稚園、行政が協同で行うべきだ」が83.4%と最も多く、次いで「子どもの安全教育は、家庭で責任を持って行うべきだ」が11.8%、「子どもの安全教育は、家庭ではなく保育園や幼稚園が行うべきだ」が0.5%となっている。

「その他」の具体的な内容としては、「小・中学校でも安全教育の場を作り地域と一帯となって安全に取り組むべき」等が挙げられた。

問13 あなた(保護者)が、特に不安に思うことは何ですか。(3つまで○)



不安に思うことについては、「子どもが交通事故にあう」が87.6%と最も多く、次いで「子どもが犯罪にまきこまれる」が86.0%、「いじめや不登校」が59.3%となっている。

「その他」の具体的な内容としては、「ネットの情報」、「子ども同士のケンカによるけが」等が挙げられた。

問 14 事故やけがの予防に関しご意見、ご感想などありましたらご記入ください。

「いかのおすし」は幼稚園のときに教わりました。子どものけがはある程度は仕方の無いものだと思います。犯罪被害、交通事故は小さい頃から教育の現場で学んでいます、いじめも早いうちから教育が必要なのではないかと思います。

普段歩いていて、事故がおこりそうで子どもが歩くには危ない場所があちこちあるので、こういって調査でもいいので意見が言える機会があるといいです。

3人の子を持つ母親としては、家庭、学校だけでなく、地域や行政等も子どもたちの安心安全なまちづくりに協力してくれるということは、とても嬉しく思っています。家庭だけでは補うことの出来ない事故やけがの予防策、宜しく願います。

改めて、家庭で行う安全教育について考えさせられました。親として子どもの安全を守る意識をもっと高めたいと思います。さまざまな情報にアンテナをはって、子どもにもしっかり情報を伝えていけるようにしたいと思います。

危ないことをしている子どもを叱ってくれる近所の大人が減ってしまったと思う。近所の方が声を掛けてくださるだけで、全ての事故に関して予防の役に立つと思います。

あまり、普段は意識したことがありませんでしたが、多々子どもと一緒に考えていかなければならないことだと思いました。これからの日本、世界を担っていく子どもたちをみんなで守っていきたいです。自分のこと、人の子も。

親の目の届く範囲で今は遊んでいますが、年齢が上がるにつれ危険なことにもあう可能性が出てくると思っています。学校の中でも友達がけがをしたり、骨折する話を聞くと心配になるので、見てない分、情報を皆で共有して、皆で気をつけて生活していけると良いと思います。家庭では、多少のことでは骨折しない丈夫な体を作ってあげるように食生活、体力作りもさせてあげたいです。

最近気をつけていても予想外の犯罪に巻き込まれる事件が多いので(広島のパックの事件や名古屋のマンション等)、親としては本当に不安な世の中です。親だけでは守りきれないところも多いので近所の方の見守りなどがあると心強いと思います。地域社会でわが子だけでなく全ての子どもを守るという意識が持てる社会になればいいと願います。

様々な経験や体験を通して危険を察知できるようにするのは、家庭での役割だと考えています。地域の方々の見守りがあるお陰であまり心配することなく過ごしていますが、大人が人としてモラルのある行動をとること、自分の家族だけでなく他者も思いやることのできる社会になれば違ってくるのかなと感じました。